

和仏法律学校講義録

矢作, 榮藏 / 若槻, 禮次郎 / 下村, 宏 / 杉本, 貞治郎 / 松岡, 義正 / 金井, 延

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-5

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

54

(発行年 / Year)

1900-04-10

和佛法律學校

講義錄

第貳部

第五號

商法總則 (自三八三) 法學士杉本貞治郎

破產法 (自八六一) 法學士松岡義正

經濟學總論 (自二五〇) 法學博士金井延

經濟學各論 (自一七八) 法學士矢作榮藏

財政學 (自四二九) 法學士下村宏

現行租稅法論 (自三四七) 法學士若槻禮次郎

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

法學志林

第六號 四月五日發行

每月一回發行
定價一冊金拾錢郵稅一冊金壹錢十冊前金壹圓郵
稅不要
校友生徒校外生ニ限リ
特價一冊八錢郵稅壹錢十冊前金六拾錢郵稅不要

破産宣告ノ沙外の效力、法學士松岡義正●株金ノ拂戻ヲ論ス、法學士杉本貞治郎●外遊所感、法
學士有賀長文

無政府主義ト其鎮壓策、在法科大學松本恭治

橫領ノ意思ヲ以テ爲シタル家屋ノ登記、辯護士信岡雄四郎

朝鮮土產、法律學士秋月左都夫

民法及ヒ商法問題解答、法學博士梅謙次郎

○民法施行前ノ婚姻○控訴期間進行始期ニ關スル問題○破産宣告ニ就テ○裁判ノ濫濫○控訴審ニ
於ケル證書訴訟○控訴判決ノ文例○陳述禁止事件ノ成行○裁判官ト素人○私立法律學校出身者聯
合大會

○送迎會兼講師會○講談會○編入試驗問題○仙臺ニ於ケル校友懇親會○長野通信○圖書閱覽室實
金寄附者氏名○校友異動

發行所 東京市麹町區富士見町六丁目 司法省指定 和佛法律學校
(電話番町一七四)

第二百六十五條ニハ商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ縱令上述ノ二種ノ商行
爲ニ屬セサル行爲ト雖モ商行爲タルコトヲ規定セリ是レ所謂附屬の商行爲ナ
リ又同第二項ニ於テ商人ノ行爲ハ總テ其營業ノ爲メニスルモノト推定セリ已
ニ營業ノ爲メニスルモノト推定スルトキハ前項ニ依リ商行爲タルヲ以テ此種
ノ行爲ヲ推定の行爲ト云フ又新商法第三條ノ規定ニ依リ當事者ノ一方ノ爲メ
ニ商行爲タル行爲ハ他ノ一方ノ爲メニ商行爲ニ非スト雖モ商法ノ規定ヲ雙方
ニ適用スルヲ以テ學者ハ之ヲ一方的雙方的商行爲ト稱スルナリ以上五種ノ商
行爲ノ中後ノ三種ハ商人アリテ而シテ後始メテ存在スル商行爲ナルヲ以テ商
人ノ意義ヲ定ムル商行爲ニ非サルコト明カナリ之ニ反シテ前ノ二種ノ商行爲
ハ何人カ之ヲ營業トシテ爲スモ商行爲タルモノニシテ又商人トハ商行爲ヲ爲
スヲ業トスル者ナルカ故ニ此二種ニ屬スル商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ハ商人
タルナリ即チ商人ノ意義ヲ定ムル商行爲ハ絕對的商行爲及ヒ相對的商行爲ニ
限ルナリ故ニ或ハ此二種ノ商行爲ヲ根原的商行爲ト稱ス

第二 商行爲ヲ爲スヲ業トスルコト

商法總則 商人

090
1900
2-1-5

第二百六十五條ニハ商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ縱令上述ノ二種ノ商行
爲ニ屬セサル行爲ト雖モ商行爲タルコトヲ規定セリ是レ所謂附屬的商行爲ナ
リ又同第二項ニ於テ商人ノ行爲ハ總テ其營業ノ爲メニスルモノト推定セリ已
ニ營業ノ爲メニスルモノト推定スルトキハ前項ニ依リ商行爲タルヲ以テ此種
ノ行爲ヲ推定の行爲ト云フ又新商法第三條ノ規定ニ依リ當事者ノ一方ノ爲メ
ニ商行爲タル行爲ハ他ノ一方ノ爲メニ商行爲ニ非スト雖モ商法ノ規定ヲ雙方
ニ適用スルヲ以テ學者ハ之ヲ一方の雙方的商行爲ト稱スルナリ以上五種ノ商
行爲ノ中後ノ三種ハ商人アリテ面シテ後始メテ存在スル商行爲ナルヲ以テ商
人ノ意義ヲ定ムル商行爲ニ非サルコト明カナリ之ニ反シテ前ノ二種ノ商行爲
ハ何人カ之ヲ營業トシテ爲スモ商行爲タルモノニシテ又商人トハ商行爲ヲ爲
スヲ業トスル者ナルカ故ニ此二種ニ屬スル商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ハ商人
タルナリ即チ商人ノ意義ヲ定ムル商行爲ハ絕對的商行爲及ヒ相對的商行爲ニ
限ルナリ故ニ或ハ此二種ノ商行爲ヲ根原的商行爲ト稱ス

第二 商行爲ヲ爲スヲ業トスルコト

商行爲ヲ爲スヲ業トスルトハ之ヲ以テ平常我所得ノ淵源トスルコトヲ謂フ故ニ繼續シテ同種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ要ス而シテ此商行爲ヲ爲スハ利益ヲ得ルヲ目的トセサルヘカラス即チ我收入ノ淵源ト爲ササルヘカラス無論此收入ヲ以テ唯一又ハ主要ナル收入ト爲ササルヘカラスルニ非ス又必スシモ現實ニ利益アルコトヲ要セス唯其目的カ營利ニ在ルコトヲ要スルノミ

第三 自己ノ名ヲ以テスルコト

商行爲ヲ爲スヲ業トスルモ自己ノ名ヲ以テセサル者ハ商人ニ非ス例ヘハ商家ノ手代番頭ノ如キ其主人ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲ス者ハ此勞務ニ因ル報酬ヲ以テ我收入ノ淵源ト爲スヘシト雖モ以テ商人ト謂フヘカラス商人ハ寧ロ其商家ノ主人ナリ又自己ノ名ヲ以テ商業ヲ爲ス者ハ必スモ自ラ働カサルヘカラサルニ非ス其名義カ自己ノ名義ナルコト即チ自己カ其營業ノ主體トシテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フヲ謂フナリ故ニ法人ノ如キ又ハ無能力者ノ如キ自ラ行爲ヲ爲スコト能ハサル者ト雖モ其法定代理人ニ依リテ商業ヲ營ムトキハ亦商人タルナリ又自己ノ名義ニ於テ商行爲ヲ爲スハ必スシモ自己ノ計算ニ於テスル

モノニ非ス即チ實際ノ損益ハ他人ニ歸スルモ第三者ニ對シテハ自己カ其行爲ノ當事者トシテ權利ヲ得義務ヲ負フ地位ニ在レハ商人タルニ妨ケナキナリ以上ノ要件ヲ備フルトキハ則チ商人タリ商人タルニ自然人ナルト法人ナルトハ問フ所ニ非ス故ニ商事會社ハ當然ニ商人タルナリ舊商法第十七條ニ於テ商人ニ關スル規定ヲ商事會社ニモ適用スヘキコトヲ定メタルハ冗文ナリトシテ新商法ニ於テハ此規定ハ削除セラレタリ

第二節 商業權能

凡ソ人ハ私權ヲ享有スルハ國法上ノ原則ナリト雖モ或ハ人ノ身分ニ因リテ商業ヲ爲スコトヲ得サルアリ或ハ行爲ノ性質ニ因リテ一般ニ又ハ特定ノ人ニ其營業ヲ制限スルコトアリ

一 身分ニ關スル制限

身分ニ因リ商業ヲ制限セラルル第一ハ外國人ナリ舊條約ニ依レハ外國人ハ居留地以外ニ於テ商業ニ從事スルコトヲ得ナリシカ新條約ニ於テハ此制限ハ削

除セラレタリ然レトモ或營業ハ今日ト雖モ仍ホ外國人ニ許ササルモノアリ例
ヘハ營業取引所仲買業ノ如キ是ナリ

第二ハ官吏並ニ其家族ナリ官吏並ニ其家族ハ官吏服務紀律第十一條及ヒ第十
七條ニ依リ本局長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商業ヲ營ムコトヲ得ス此禁制ヲ
犯シタル者ハ刑法第二百七十五條ニ依リテ處分セラル

第三ハ支配人第三二條代理商第三八條合名會社ノ社員第六〇條合資會社ノ社
員第五百條ニ依リ第六〇條ノ規定ノ準用アリ株式會社ノ取締役第一七五條等
ノ如キ法律上一定ノ代理權アル者ニシテ其本人ノ許諾アルニ非サレハ一定ノ
商行爲ヲ爲スコトヲ得サルナリ

以上身分ニ因ル商業禁止ヲ犯シタル場合ニ於テハ法律上一定ノ制裁アリト雖
モ其行爲ハ有效ニシテ商行爲ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘシ是レ能力ノ欠缺
ヲ理由トセル規定ニ非ス又必スシモ其行爲ノ性質カ社會ノ公安ニ害アルニ非
サルカ爲メナリ

二 行爲ニ關スル制限

或營業ヲ營ムニハ其行爲ノ性質ニ因リ法律上ノ制限アルモノアリ法律ノ制限
ニハ或ハ絕對ニ之ヲ禁スルモノアリ特定ノ人ニ之ヲ禁スルモノアリ又或ハ一
定ノ條件ノ下ニ制限スルモノアリ

此種ニ屬スル第一ハ政府ノ認可又ハ免許ヲ得テ始メテ營ムコトヲ得ヘキ營業
ナリ此種ノ營業ハ極メテ多シ認可又ハ免許ヲ得ハ何人モ之ヲ營ムコトヲ得ヘシ
第二ハ專業ナリ或ハ政府ノ專業アリ或ハ私人ノ專業アリ專業者以外ノ者ハ之
ヲ爲スコトヲ得サルナリ

第三ハ特定ノ資格ヲ備フル者ニ非サレハ營ムコトヲ得サル營業ナリ此種ノ營
業ヲ營ムニハ特定ノ資格ヲ備ヘテ更ニ政府ノ免許ヲ受クルヲ通例トス例ヘハ
取引所仲買人ノ如キ是ナリ

第四ハ所謂禁制行爲ニシテ富鐵賣買刑法第二六二條阿片烟輸入製造販賣同第
二三七條人身賣買明治五年十月二日布告五百石以上ノ船舶ノ製造明治十八年
七月八日布告等ノ如キ是ナリ

以上第一ヨリ第三ニ屬スル營業ハ法律上一定ノ手續ヲ經ルカ又ハ資格ヲ備フ

ルニ非サレハ之ヲ營ムヲ得スト雖モ此法令ニ違反シテ爲シタル行爲ハ必スシ
モ常ニ無効ニ非ス之ニ反シテ第四ニ屬スル行爲ハ行爲自身ノ性質カ公安ヲ害
スルト認メテ之ヲ禁シタルモノナルヲ以テ其行爲ハ常ニ無効ナリ
備考 舊商法第十五條ニハ法律上禁セラレタル總テノ商取引又ハ法律上特
ニ規定セラレタル別段ノ資格ヲ有セサル者ノ爲シタル總テノ商取引ハ無
效タルコト及ヒ公務ヲ帶フル者商業ヲ營ムコトヲ禁セラレタル場合ト雖
モ其者ノ爲シタル取引ハ此理由ノ爲メ無効ト爲ルコト無キコトヲ規定セ
リ然ルニ新商法カ全然此規定ヲ削除シタルハ敢テ之ヲ不當ト云フニ非ス
唯此等ノ事項ハ各其法令ノ規定ニ依リテ定マルヘキモノニシテ商法ノ規
定スヘキ所ニ非サルカ爲メナリ

第三節 商事能力

商業權能ノ制限ヲ受ケサル者ハ皆商業ヲ營ムコトヲ得ヘシト雖モ所謂行爲能
力ヲ有セサル者ハ法定代理人ニ依ルニ非サレハ自ラ商行爲ヲ爲スコトヲ得

ルナリ行爲能力ニ關スル規定ハ民法第一編第一章第二節ニ於テ詳ニ規定セル
ヲ以テ更ニ商法ニ規定スルコトヲ要セサルモノ多シ故ニ新商法ニ於テハ單ニ
商事ニ關シテ特別ナル規定ノミヲ掲ケタリ

民法第六條及ヒ第十五條ノ規定ニ從ヘハ一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未
成年者又ハ妻ハ其營業ニ關シテハ獨立人ト同一ノ能力ヲ有スヘシ然レトモ商
事ニ於テハ此規定ハ猶ホ十分ナリト云フヘカラス未成年者又ハ妻ト雖モ法定
代理人又ハ夫ノ許可ヲ得テ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ヘシ而シテ會
社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許可セルハ必スシモ會社營業ヲ許可セタルモ
モノニ非スト雖モ會社ノ無限責任社員ハ其全財産ヲ以テ會社ノ義務ヲ負擔スル
又ハ夫ニシテ已ニ未成年者又ハ妻ノ會社ノ無限責任社員タルコトヲ許可セル
以上ハ其會社ノ營業ニ關シテハ能力アリト認メタルモノト爲ルモ不當ニ非ス
故ニ新商法第六條ハ之ヲ明カニ規定セリ
未成年者ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商業ヲ營ムコトヲ得

ス(民法第八八〇條)親權ヲ行フ父又ハ母在ラサル場合ニハ親族會ノ認許ヲ經タル後見人ノ同意アルニ非サレハ商業ヲ營ムコトヲ得ス(同第九二六條)又妻ハ夫ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商業ヲ爲スコトヲ得ス(同第一四條)而シテ此等ノ許可又ハ同意ヲ得スシテ未成年者又ハ妻ノ爲シタル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘシ即テ許可又ハ同意ノ有無ハ第三者ノ利害ニ關スルコト極メテ大ナルヲ以テ未成年者又ハ妻カ此等ノ條件ヲ備ヘテ商業ヲ爲サントスルトキハ之ヲ登記セシメテ第三者ヲシテ其能力ヲ疑ハサラシムルコトヲ要ス是レ商法第五條ノ規定アル所以ナリ

又後見人カ未成年者ニ代リテ營業ヲ爲スニハ親族會ノ認許アルコトヲ要ス(民法第九二九條)後見人ノ未成年者ニ代リテ爲ス所ノ行爲ハ代理行爲ナリ然ルニ若シ後見人カ民法第九百二十九條ノ規定ニ違反セテ親族會ノ認許ヲ得スシテ未成年者ニ代リテ商業ヲ爲セタル場合ニハ代理權ノ超越ナリ故ニ此行爲ヨリ生スル義務ニ關シテハ第三者カ代理權アリト信スヘキ正當ノ理由アルニ非サレハ未成年者ハ其責ニ任セス(民法第一一〇條)第一〇九條)第三者ハ唯後見人

ニ履行又ハ損害ノ賠償ヲ請求シ得ルノミ(同第一一七條)故ニ後見人カ未成年者ニ代リテ商業ヲ營ム場合ニモ亦登記セシムル必要アリ(商法第七條)又親族會ハ後見人ノ商業上ノ代理權ヲ制限スルコトヲ得ヘシト雖モ後見人カ一旦親族會ノ認許ヲ得テ未成年者ニ代リテ商業ヲ爲ストキハ其商業上一切ノ事項ニ關シテ代理權アリトセサレハ商事ノ敏活ヲ缺クノ恐アルヲ以テ商法第七條第二項ハ其代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト規定セリ

第四節 小商人

自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ハ商人ナリ故ニ苟モ此定義ニ適フ者ハ大商業家ナルト小商業者ナルトヲ問ハス總テ商人ニシテ商人ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘキモノナリ然レトモ戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他之ニ等シキ小商人ニハ商業登記商號商業帳簿等ノ規定ハ之ヲ適用スル必要ナシ故ニ第八條ノ規定アリ而シテ小商人ノ範圍ハ明治三十二年勅令第二

百七十一號ヲ以テ之ヲ定ム施行法第七條即チ營業資本金五百圓ニ滿タサル者ハ之ヲ小商人トス

備考 舊商法第七條ニ於テハ此等ノ小商人ノ取引行爲ハ之ヲ商行爲ト觀スト規定セリ故ニ小商人ハ商人ニ非ス隨テ一モ商法規定ノ適用ヲ受クルコトナシ

第三章 商業登記

前章ニ於テ商法ニ謂フ所ノ商人ヲ規定セリ我商法ノ主義ニ從ヘハ商法ノ適用ヲ受クヘキ者ハ必スシモ商人ニ非ス然レトモ普通人ニシテ商行爲ヲ爲ス者ト商行爲ヲ營業トスル者トハ同一規定ニ依ラシムルコトヲ得サルモノアリ本章以下五章ハ則チ特ニ商人ノ爲メニ必要ナル事項ヲ規定セリ
本章ハ商業登記ヲ規定ス商業登記ハ商人ノ商業上ノ事項ニシテ世間ニ公示スルコトヲ要スルモノヲ裁判所ニ備フル所ノ帳簿ニ登錄セシムルナリ蓋シ商人ハ繼續シテ一般人ト取引スルヲ目的トスル者ナルヲ以テ一般ノ信用ヲ保證スルニ非スシハ善ク商取引ノ圓滑ヲ圖ルコト能ハス是ニ於テ商業登記ノ制アリ然

レトモ商人ニハ商業上ノ秘密ハ各商人ノ商略ノ存スル所ナルヲ以テ登記ノ制ヲ設クルモ可成此秘密ヲ破ラサルコトヲ要ス故ニ商事會社ノ登記事項ニ比スレハ一箇商人ノ登記事項ハ甚タ少ナシ是レ一箇商人ニ在リテハ概シテ商事會社ニ於ケル如ク信用上ノ危險多カラサレハナリ

舊商法第十八條ニハ登記事項ヲ列記シテ商號後見人未成年者婚姻契約代務及ヒ會社トセリ然レトモ登記事項ハ商法中各其關係條文ニ於テ規定スヘキモノナルヲ以テ本章ニ於テハ單ニ登記ノ手續及ヒ效力ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第一節 登記ノ手續

登記事務ハ非訟事件トシテ地方裁判所ニ於テ之ヲ行フ地方裁判所ハ商業登記簿ヲ備ヘ當事者ノ請求ニ因リテ登記ヲ行フ舊商法ニテハ商業登記簿ハ區裁判所ノ主管ニシテ八種アリ商號登記簿後見人登記簿未成年者登記簿婚姻契約登記簿代務登記簿合名會社登記簿合資會社登記簿株式會社登記簿是ナリ明治二十三年十月二十九日司法省令第八號新商法ニ於テハ商事會社ニ株式合資組織

ヲ認メタルヲ以テ株式合資會社ノ登記簿モ設備セサルヘカラス明治三十二年司法省令第十三號ヲ以テ商業登記取扱手續ヲ定メタリ此手續ニ依リ代務登記簿及ヒ婚姻契約登記簿ヲ改メテ支配人登記簿及ヒ妻登記簿トセリ
登記ハ總テ商人ノ營業所所在ノ裁判所ニ於テ之ヲ行フ本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ法律ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記セサルヘカラス(第九條第一〇條)
登記ノ目的ハ公示ニ在リ故ニ登記簿ハ公衆ニ閱覽ヲ許シ又其謄本抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得セシムルノミナラス登記シタル事項ハ其裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告セシム(第一〇條)

第二節 登記ノ效力

登記ノ效力ニ關シテ二主義アリ(一)ハ登記ニ因リ法律關係ヲ設定シ又ハ消滅セシムル主義ニシテ獨逸ノ不動産登記我舊商法第二百十條株式會社定款變更ノ登記ノ如キ是ナリ(二)ハ登記ヲ以テ公示方法ト爲ス主義ナリ第一主義ハ第三

者ヲ保護スル點ニ於テ甚タ便利ナルカ如シト雖モ其事理ニ戻リ又實際第三者ノ利害關係ヲ有スル者ナキ場合ニ於テモ常ニ登記ニ因リテノミ法律關係ヲ確定セントスルモノナリ第二主義ニ從ヘハ登記ハ單ニ公示方法ニ過キタルヲ以テ法律關係ハ登記以前ニ確定シ登記ハ唯此確定セル法律關係ヲ公示スルノミ本邦登記法ノ主義ハ是ナリ特ニ商業登記ニ付テハ各國此主義ヲ採用セリ此法律關係ヲ公示スル所以ハ第三者ヲ保護センカ爲メナリ已ニ法律カ一定ノ事項ノ第三者ニ公示セラルル必要ヲ認メ登記ノ義務ヲ負ハシメタル以上ハ登記前ニ在リテハ善意ノ第三者ニ對シテ其法律關係ヲ以テ對抗スルコトヲ得スト規定スル必要アリ

第一 登記ノ效力ハ何時發生スルヤ 登記ヲ以テ公示方法トスル主義ヲ採ルモ法律關係ヲ設定セシムル主義ヲ採ルモ皆第三者ヲ保護セント欲スル主義ニ外ナラス故ニ登記ノ目的ハ公告ニ由リテ始メテ完全ニ達セラルルナリ是ニ於テ法律關係ノ第三者ニ對スル效力ハ登記ノ時期ヨリ發生スルカ又ハ公告ノ日時ヨリ發生スルト定ムルヲ穩當ナリトスルカ舊商法第二十二條ハ登記事項ハ

之ヲ登記シタルトキハ公ニシテ且裁判所ノ認知セタルモノトス規定セリ乃チ登記シタルトキハ公告前ト雖モ其法律關係ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルナリ然レトモ已ニ第三者ヲ保護スルノ目的ヲ以テ登記ノ制ヲ定メ又登記簿ニ登錄スルノミニテハ不十分ナリトシ更ニ裁判所ヲシテ之ヲ公告セシムル以上ハ寧ロ公告ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗シ得ル時期ヲ定ムルヲ穩當ナリト謂ハサルヘカラス又登記及ヒ公告ノ後ト雖モ正當ノ事由ニ因リ即チ過失ナクシテ之ヲ知ラザリシ第三者ニ對シテハ此法律關係ヲ以テ對抗スルコトヲ得スト云フハ亦已ムヲ得サル規定ナルヘシ第一二條

第二 登記ト事實トノ關係 (一) 登記事項ハ法律ノ規定スル所ナリ此事項ハ必ス之ヲ登記セサルヘカラス而シテ之ヲ登記スルトキハ公ニ認知セラレタルモノト推定セラル今若シ登記事項ニ非サル事項ヲ登記シタルトキハ如何ノ效力アルヤ登記ハ法律ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ヲ登記簿ニ登錄スルニ由リテ其事項ノ爲メニ一定ノ效力ヲ生スルノミ法律ノ登記ヲ命セサル事項ハ本來登記ヲ爲スコトヲ得サル事項ナリ假ニ登記官吏誤リテ之ヲ登記スルモ是レ法律ノ

所謂登記ニ非ス隨テ些ノ效力ヲ生スルコトナシ

(二) 登記事項ヲ登記セル場合ニ於テモ(一)或ハ特ニ私法關係ヲ起ササルコトアリ例ヘハ支配人選任ノ如キハ登記ニ因リテ支配人ノ代理權ニ消長アルニ非ス之ヲ登記セサルモ本人ハ第三者ニ對シテ甲ハ我支配人ナリト稱シテ取引セシムルニ於テ妨ケナシ第三者モ亦其登記ナキカ爲メニ支配人トシテ取引スルコトヲ拒ムコトナカルヘシ縱令之ヲ登記スルモ第三者ヲ強テ之ト取引セシムルコト能ハス又第三者カ支配人タルコトヲ知ラスシテ甲ト取引セタルハ本人ハ其登記ヲ以テ第三者ニ對抗シテ之ヲシテ直接ニ自己ニ對シテ契約ヲ履行セシムルコト能ハス何トナレハ第三者ノ意思ハ本人ト取引スルニ在ラスシテ甲ト取引セント欲セルモノナレハナリ若シ支配人カ本人ノ爲メニスル意思ナリシトスレハ此取引ハ意思ノ合致ヲ缺クニ因リ本來不成立ナルヘキモノナリト雖モ支配人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サザリシトスレハ民法第百條ノ規定ニ依リ支配人カ自己ノ爲メニスル意思表示ト看做サルヘク若シ又支配人カ眞實自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ取引セルモノトスレハ此取引ハ無論第三

者ト甲トノ間ノ取引ナリト雖モ商法第三十二條ノ規定ニ依リ主人ハ甲ニ對シ
 テ其取引ヨリ生スル利益ヲ自己ニ移サシムルコトヲ得ヘシ之ヲ要スルニ此種
 ノ登記事項ハ登記ノ爲メニ故ラニ法律關係ヲ生スルコトナシ法律ハ唯本人及
 ヒ第三者ノ便益ノ爲メ其事項ノ公示ヲ希望スルノミ
 (五) 最多クノ場合ニ在リテハ登記ハ登記事項ニ第三者ニ對抗スル力ヲ與フル
 ナリ法律關係ノ成立ハ登記以前ニ在リト雖モ之ヲ登記スルニ非サレハ善意ノ
 第三者ニ對シテ其效力ヲ主張スルコトヲ得ス前段ニ述ヘタル支配人ノ登記ヲ
 變更シ又ハ抹消スル登記ハ却テ此種ニ屬スルナリ何トナレハ此登記ノ變更ハ
 一面ニ於テハ舊支配人ノ解任ヲ意味スルヲ以テ抹消登記ト等シク本人ハ之ニ
 依リテ代理ノ消滅ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルナリ故ニ爾後舊支配人
 ヲ支配人ト信シテ取引セル第三者ニ對シテハ第三者ニ正當ノ事由アルニ非サ
 レハ契約ノ責ニ任スルコトナシ
 (六) 或場合ニハ登記ニ因リテ始メテ法律關係ヲ生スルコトアリ或ハ法律關係ヲ
 消滅セシム(舊商法第二十二條未段ニ於テハ)但權利關係カ登記ニ因リ始メテ生

二二條民訴第一一四條殊ニ目錄ノ調製ニ共助ヲ供スルカ如キ管財人ノ職務ヲ補
 助シ(第一〇一二條第一〇一四條其他債權調查會ニ於テ届出タル債權ニ付キ
 意見ヲ表示(第一〇二五條破産者ハ任意ニ其義務ノ履行ヲ免ルルコトヲ得ス
 故ニ破産者ハ裁判上ノ許可ヲ受タルニ非サレハ一時及ハ永久的ニ其住地ヲ
 離ルルコトヲ得ス若シ破産者ニシテ裁判所ノ許可ナク住地ヲ離レ其他法律上
 ノ義務ヲ盡ササルトキハ裁判所ハ何時ニテモ引致即チ強制出頭ヲ命スルコト
 ヲ得若シ破産者カ逃走スルノ虞アルトキハ監守ヲ命スルコトヲ得其他破産裁
 判所ハ破産者ノ自由ヲ拘束セサレハ財産ヲ隱匿シ貸金等ヲ取立ツルカ如キ破
 産財團ヲ害スル行為ヲ行フ虞アリト認メタルトキハ破産財團保全ノ爲メニ破
 産者ノ監守ヲ命スルコトヲ得ヘシ(第一〇三條舊商法施行條例第四五條第四
 七條第四八條第四九條商法施行法第一四七條)
 引致又ハ監守ヲ命シタルノ決定ニ對シテハ獨逸破産法第六十六條ハ破産者ノ
 即時抗告ナル不服申立方法ヲ認メタルモ我現行破産法ニ於テハ何等ノ明文ナ
 キヲ以テ破産者ハ不服申立ヲ爲スコトヲ得サルヘシ立法上ノ見解トシテハ失

當ト認ム債權者ト爲シタル引致又ハ監守ヲ命スル決定ヲ求ムル申立ヲ却下シタル決定ニ對シテハ法律上別ニ明文ナキヲ以テ債權者モ亦不服申立ヲ爲スコトヲ得ス獨逸破産法ニ於テモ亦然リ破産者ハ前述ノ如キ義務ヲ負フト雖モ他ノ一方ニ於テハ其利益防禦ノ爲メニ破産手續ニ參與スルノ權アリ債權者集會ニ於テ會議事項ニ付キ意見ヲ述ヘ(第一〇三五條第一〇三七條)管財人ノ特定シタル行爲ニ付キ意見ヲ述ヘ(第一〇一七條第一〇一九條)債權調查會ニ於テ届出債權ニ對シ異議ヲ述ヘ(第一〇二五條)協議契約ノ提供ヲ爲シ(第一〇三八條)其他終局計算ニ付キ異議ヲ申立ルコトヲ得(第一〇四八條)

破産手續繼續中ニ於ケル破産者ノ死亡ハ破産手續ノ進行ニ毫モ影響ヲ及ボサス民訴第五五二條準用唯單純承認相續ノ場合ニ於テハ相續人カ相續ノ結果トシテ破産者トシテ被相續人ノ地位ヲ承繼シ破産手續ニ於テ完全ナル満足ヲ享有スルコトヲ得サリシ破産債權者ハ破産手續終局後無限ニ相續人ニ對シ執行ヲ爲スコトヲ得ヘキノミ相續人ハ承繼ノ結果トシテ又相續財産ノ結果トシテ又相續財産ノ管理人並ニ遺言執行者ハ相續財産ヲ代表スル民法上ノ授權ニ因

リ破産者カ破産手續上ニ於テ有スル權利ヲ行使スルコトヲ得故ニ此等ノ者ノ提供ニ因リ協議契約ノ成立スルコトアルハ當然ナリ而シテ破産者ノ負フ義務即チ必要ナル諸般ノ報告ヲ爲ス義務其他之ニ牽聯スル義務殊ニ破産裁判所ノ許可ナクンハ猥リニ住所ヲ離ルルコトヲ得ナルノ義務ハ此等ノ者ノ負フ所ナルヤ言フ俟タサル所ナリ

第二章 破産債權

破産手續ハ其手續開始ノ當時ニ於テ債務者ニ對シ其財産上ニ満足ヲ求ムル權利ヲ有スル者ニ平等の満足ヲ得セシムルヲ目的トス此權利ヲ破産債權ト云フ故ニ破産關係ニ付テハ破産債權アルハ當然ナリ左ニ之カ意義體様主張ノ範圍順位及ヒ確定等ヲ略述スヘシ

第一節 破産債權ノ意義

(一) 性質 破産債權即チ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ル權利トハ債權者

破産法 實體的破産法規 破産債權

カ債務者ニ對シ其有スル破産財團上ニ満足ヲ求ムルコトヲ得ル權利ナリ之ヲ換言スレハ破産手續開始マテニ於テ發生シ且ツ債務者其者ニ對シ債權者ノ有スル財産上ノ請求權ナリ而シテ破産債權ノ各要件ハ雖ニ破産債權者ノ意義ヲ講述セタル場合ニ於テ説明シタルモノト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ省略ス唯一言注意スヘキハ社員カ會社財産上ニ有スル持分カ破産債權ニ非サルコト是ナリ社員ハ會社財産ニ持分ヲ有スルカ故ニ會社ノ消滅ニ際シテハ其殘餘財産ノ配當ヲ受タルノ權利ヲ有ス此ノ如ク殘餘ノ財産上ニ配當ヲ受タルニ過キサルカ故ニ社員ノ持分ハ會社ノ借方ヲ増加スルモノニアラス從テ社員ハ之ヲ會社ノ債權者ト認ムルコトヲ得ス之ヲ以テ會社カ破産シタル場合ニ於テハ其社員ハ破産債權者ト爲ラス又社員ノ持分カ破産債權者ト爲ラサルハ當然ナリ但シ社員ノ會社ニ對スル信用的債權ハ他ノ債權者ノ債權ト同シク破産債權タルヤ言フ俟タス諸君ハ此法理ニ據リテ破産シタル會社ニ對スル社員ノ法律上ノ地位ヲ確定スルコトヲ得ルナルヘシ

(二) 除外 左ノ權利ハ法理上破産債權ノ意義ヨリ當然除外セラレサルヘカラス

(イ) 罰金ニ關スル權利 破産者ニ對シテ言渡サレタル罰金ニ關スル權利ハ破産手續ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ス何トナレハ獨逸ノ「コーレル氏」ノ云ヘル如ク罰金ハ義務ヲ發生セサルヲ以テ罰金ニ關スル權利ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得サルノミナラス破産者ヨリ徵收スヘキ罰金ヲ以テ破産者ノ他ノ債務ト同視シ破産手續ニ於テ主張シ得ヘキモノトスレハ破産財團ヨリ罰金ヲ徵收スル結果トシテ破産者ヨリ却テ直接ニ罰金上ノ責任トキ破産債權者ニ苦痛ヲ感セシメ爲メニ刑罰ノ本旨ニ反スルニ至ルカ故ナリ(獨逸新破産法第六三條第三項罰金ハ公法上ノ關係ニ基キタルヲ前提トス故ニ民事裁判官又ハ刑事裁判官其他行政官廳ノ言渡シタルモノヲ總稱スルモノト知ルヘシ從テ過料及ヒ科料モ亦罰金ト同一ニ論決スヘキモノト信ス

沒收ノ執行ニ關シテ一言スヘキハ破産宣告以前ニ於ケル沒收ノ宣告ニ因リ其目的物カ破産者ノ財産ニ屬セサルニ至リタルトキハ破産宣告以後ニ於テ沒收ノ宣告ノ執行ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ反對ノ場合ニハ沒收ノ目的物カ破産財團ニ屬スルヲ以テ沒收ノ宣告ノ執行ヲ爲ストキハ破産債權者ノ利益ヲ害スル

ニ至ルヘシ故ニ斯ル場合ニ於テハ沒收ノ宣告ノ執行ヲ爲スコト能ハサルモノト論決スルヲ可トス但シ法禁物ノ沒收ニ關シテハ此限リニ在ラス何トナレハ之ヲ執行スルモ破産債權者ヲ害スルコトナケレハナリ獨逸ノコーレル氏ハ沒收ハ其性質上特定ノ財産ニ對シ物權的效力ヲ生スルヲ以テ破産手續ニ於テ主張スヘキモノニ非スト云ヘリ

(四) 無償行為ニ基ク權利 破産者ノ無償行為贈與遺贈ニ基ク權利ハ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ス何トナレハ法理上有償行為ニ基ク債權者カ完全ナル辨濟ヲ得サルトキハ該債權者ヨリ無償行動ニ基ク債權者ヲ劣等視スヘキモノナレハナリ獨逸新破産法第六三條第四項然レトモ破産手續終局以後破産財團ノ殘部ニ對シテ又ハ破産手續中破産財團ニ屬セサル財産上ニ満足ヲ求メ得ルヤ言ヲ待タス(サルベイ)ペーラルゼン氏等ハ破産手續ヨリ除外セラレタル債權者カ破産手續ニ加入スルコトヲ得ル債權者ヨリ優等視セラルル理由ナシトシテ前者カ破産手續繼續中破産財團ニ屬セサル財産上ニ満足ヲ求ムルコトヲ得ヘキ見解ヲ排斥シ我商法第九百八十七條ニ該當スル獨逸舊破産法第十

一條同新破産法第十四條ノ制限ハ無償行為ニ基ク權利ヲ有スル者ニ行ハルト云ヘリ然レトモフヒツチンヅ氏ハ該規定ハ破産債權者ニ對シテノミ適用セララルル規定ナリトノ理由ヲ以テ反對ノ見解ヲ下シタリ而シテ此權利ハ破産手續上ニ於テ主張スルコトヲ得サルカ故ニ縱令破産宣告以前民法上相殺ノ要件ヲ存スト雖モ破産財團ニ對シ支拂フヘキ債務ト相殺スルコトヲ得サルヤ言ヲ俟タス

第二節 破産債權ノ體樣

破産債權ハ債務者ノ財産上ニ金錢の執行ニ因リテ満足ヲ享有スル權利ナリ何トナレハ斯ル權利ニ非スンハ破産財團ヲ以テ平等の満足ヲ得セシムルコト能ハサレハナリ破産債權ハ破産宣告ノ當時ニ於テ既ニ發生シタルモノナルコトヲ要ス其理由ハ前述シタル所ナレハ茲ニ之ヲ省略ス故ニ左ノ體樣ヲ備フル權利ハ破産債權ト爲ルニ妨ケンシ

(一) 期限附權利 破産宣告ノ當時ニ於テ未タ履行期ノ到來セサル權利ハ破産

債權トシテ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ヘシ何トナレハ期限ハ單ニ
權利ノ主張ヲ延引セシムルモノニシテ權利ノ發生ヲ止ムルモノニ非サレハナ
リ第九八八條民法第一三七條獨新破第六五條第一項

(二) 條件附權利 條件附權利即チ破産宣告ノ當時未タ條件ノ成就セサル權利
ハ破産債權トシテ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得解除條件附權利ハ無
條件ノ權利トシテ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得何トナレハ解除條件
ハ權利ノ發生ニ繫ラスシテ却テ權利ノ消滅ヲ條件ニ繫ラシムルモノナレハナ
リ停止條件附權利ハ破産債權トシテ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得何
トナレハ此權利者ハ破産者ニ對シテ破産宣告ノ當時マテニ發生シタル財産上
ノ請求權即チ條件成就ノ場合ニ於テ特定ノ給付ヲ求ムルコトヲ得ルノ權利ナ
レハナリ然レトモ停止條件附權利ヲ有スル者ハ擔保ヲ求ムルコトヲ得ルノミ
何トナレハ停止條件ハ權利ノ發生ヲ條件ニ繫ラシムルモノナルヲ以テ停止條
件附權利ハ將來ニ於テ發生スルコトノ不確實ナルカ故ナリ

條件附權利ハ當事者ノ行爲契約又ハ遺言及ヒ法律ノ規定ヨリ生スル破産者ト其

同シテ債務ヲ負フ者カ破産者ニ對シテ有スル求償權ハ其之ヲ有スル者カ債權
者ニ對シテ將來支拂ヲ爲シタル場合ニ行フ權利ナルヲ以テ法律ノ規定ニ依レ
ル條件附權利ナリト云ハサルヘカラス故ニ斯ル求償權カ連帶保證不可分手形
ノ振出裏書引受等民法第四四二條第四五九條第四六〇條商法第四七〇條ノ法
律關係ニ因リテ求償義務者ノ破産宣告以前ニ發生シタルトキハ求償權者ハ其
權利ノ條件成就以前即チ債權者ニ支拂ヲ爲ササル以前ニ於テ條件附權利トシ
テ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得

求償權者ハ債權者カ其權利ヲ求償義務者タル債務者ノ破産手續ニ於テ主張セ
タル場合ニ於テモ猶ホ求償權ヲ同一破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ルヤ否
ヤハ學者間ニ爭アル所ナリ獨逸ノゾイフェルド氏ハ破産者ハ唯一回債務額ヲ
支拂フヘキ義務ヲ負ヒタル者ナルコトヲ理由トシテ消極的ニ論決シ「デルンブ
ルヒ氏ハ斯ル場合ニ於ケル求償權ノ主張即チ届出ハ債權者カ求償義務者タル
債務者ノ破産財團ヨリ満足ヲ受ケサル場合ニ效力アル副位的性質ヲ有スルニ
外ナラサルヲ以テ之カ爲メニ破産財團ヲ害スルモノニ非ストノ理由ニ依リ積

極的ニ論決セリ「フタナング」氏モ亦然リ余輩ハ後説ヲ至當ト信ス而シテ債權者
カ届出債權ノ全額ニ對スル配當ヲ破産財團ヨリ受ケ又求債權者カ届出權利ニ
對スル擔保ヲ供セシムルコトヲ得セシメハ破産債權者間ニ平等ヲ維持スヘキ
破産ノ原則ニ反スルヤ當然ナルヲ以テ債權者カ配當ヲ受ケタルコトハ同時ニ
求債權者ハ満足ヲ受ケタルモノト云ハサルヘカラス

(三) 多數當事者ノ債權 連帶不可分保證手形關係等ノ如キ法律關係ニ因リ同
一ノ給付全部ニ付キ相並テ責任ヲ負フ二人以上ノ債務者カ破産シタルトキハ
債權者ハ其當時有スル債權ノ全額ニ付キ各破産手續ニ届出ヲ爲スコトヲ得第
一〇三一條獨破第六八條佛商第五四二條以下瑞破第二一六條蓋シ債權者ハ共
同債務關係ノ結果トシテ各債權者ヲ唯一ノ債務者タルカ如クニ取扱フコトヲ
得ヘクレハナリ(民第四三〇條第四四一條第四五四條獨民第四二一條第四三一
條第七七三條第一項第一端法ニ於テハ破産宣告ハ不可分債務ヲ損害賠償ニ變性
シ且ツ可分債務ト爲スヲ以テ義務法第七九條第八〇條各債務者ノ破産ニ全額ノ
届出ヲ認メス)主タル債務者及ヒ證人ノ破産ニ於テハ保證人ハ民法第四百五十

二條及ヒ第四百五十三條ニ規定セル抗辯ナカルヘキヲ以テ債權者ハ主タル債
務者ノ破産ニ於ケルト同シク届出ヲ爲スコトヲ得又支拂ハレサル手形ノ引受人
及ヒ所持人ノ前者ノ破産ニ於テハ債權者ハ手形法ノ原則ニ從テ届出ヲ爲スコ
トヲ得共同債務者ノ一人カ破産シタル場合ニ於テモ債權者ハ其當時ニ有スル
債權全額ニ付キ届出ヲ爲スコトヲ得但破産者カ保證人ナル時ハ停止條件附債
權トシテ届出ヲ爲スコトヲ得ルノミ何者保證人ハ破産シタルカ爲メニ催告ノ
抗辯ヲ失ハサルヲ以テナリ(瑞破法第二一五條)

(四) 存續期間ノ不確定ナル權利 終身年金權養料請求權ノ如キ存續期間ノ不
確定ナル權利ハ當事者ノ行為契約又ハ遺言又ハ損害賠償ニ基ク權利トシテ破
産宣告以前ニ於テ發生シタルモノナル以上ハ破産宣告以後ニ受取ルヘキ給付
ニ關シテモ破産手續ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得斯ル權利ノ發生原因カ契約ナ
ルトキハ破産宣告以前ニ於テハ成立スルコトヲ要シ遺言ナルトキハ破産宣告
ヲ受ケタル相續人カ破産手續開始以前ニ負擔附相續ヲ承認シタルコトヲ要シ
又損害賠償ナルトキハ其義務ヲ發生スル事情カ破産宣告以前ニ存シタルコト

ヲ要ス何トナレハ斯ル權利ハ既ニ破産宣告ノ當時ニ發生シタルモノト云フヘケレハナリ然レトモ夫婦間又ハ親子間ニ存スル養料請求權ノ如キ單ニ親族上ノ關係ニ原因スル權利ハ破産手續開始後ニ於テ受取ルヘキ給付ニ付キ破産手續ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ス何トナレハ斯ル權利ハ單一ノ權利ニ非スエテ寧ロ各定期ニ於ケル必要ニ因リテ發生スル權利ナルヲ以テ破産宣告ノ當時マテニ發生シタル給付ノミヲ破産債權ト云フヲ得ヘケレハナリ

(五) 手形上ノ權利 手形上ノ權利ハ引受人ニ對シテハ手形ノ引受ニ因リ振出人ニ對シテハ手形ノ振出ニ因リ裏書譲渡人ニ對シテハ手形ノ裏書ニ因リテ成立ス故ニ手形上ノ權利ハ破産シタル引受人ニ對シテハ引受カ破産宣告以前ニ存シタル場合ニ限り破産シタル振出人ニ對シテハ振出カ破産宣告以前ニ存シタル場合ニ限り又破産シタル裏書譲渡人ニ對シテハ裏書カ破産宣告以前ニ存シタル場合ニ限り破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得破産シタル引受人カ破産宣告以前ニ引受ヲ爲シタルニ因リ引受人ニ對シ生シタル手形上ノ權利ハ縱令振出人ノ署名其他手形ノ完成ニ必要ナル内容カ引受人ノ破産手續ノ開始

後ニ具備シタル場合ト雖モ破産債權タルニ妨ケナシ面シテ手形ノ完成ハ手形義務者ニ必要ナルモノ引受人ハ自地引受ニ依リテモ猶ホ義務ヲ負フモノタリ故ニ引受ヲ爲シタル以上ハ完成シタル手形ノ引受ヲ爲シタル場合ト同シタリ義務ヲ負ヒ引受ヲ得タル者及ヒ其後者ニ對シ引受以後ニ手形ノ完成シタル理由ヲ以テ義務ヲ免ルルコトヲ得サルナリ此法理ハ引受人カ破産宣告ヲ受ケタルカ爲メニ變更スルモノニ非ス

第三節 破産債權ノ主張ノ範圍

破産手續ニ於テ破産債權ヲ主張スル範圍ハ左ノ法理ニ依リテ定マルモノトス
(一) 金錢ノ支拂ヲ目的トスル破産債權及ヒ金錢ノ支拂ヲ目的トセサル破産債權ノ主張ノ範圍 破産手續ハ前ニ述ヘタルカ如ク債權者ニ破産財團タルヘキ破産者ノ財産ヲ以テ平等の満足ヲ得セシムルヲ目的トス隨テ各破産債權ハ破産宣告ノ當時ニ於ケル金錢の價額ノ點ヨリ觀察セサルヘカラス故ニ破産債權ハ破産手續ニ於テ破産宣告ノ當時ニ有スル金錢の價額ニ從テ確定セラルヘキ

金銭の債權トシテ主張スルコトヲ得ヘキノミ是ヲ以テ特定金額ノ支拂ヲ目的トセサル債權ハ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルニ因リテ金銭の債權ニ變質セラルモノトス此ノ如キ破産債權ハ破産手續ニ於テハ破産宣告ノ當時ニ有スル金銭の價格ニ從ヒ確定セラルヘキ金銭の債權トシテ主張スルコトヲ得ルニ止マルヲ以テ各破産債權ノ主張ノ範圍ハ破産宣告ノ當時ニ於ケル金銭の價格ニ因リテ定マルモノト云フヘシ面シテ配當相殺及ヒ債權者集會ニ於ケル決議權ニ關シ必要ナル此金銭の價格ノ確定ハ債權カ金銭ノ支拂ヲ目的トスルト否トニ從テ各異ナレリ左ニ之ヲ分説スヘシ

(イ) 金銭ノ支拂ヲ目的トスル債權 特定金額ノ支拂ヲ目的トシ且ツ返済期限ナキ債權ハ利息附タルト否トニ拘ラス破産宣告ノ當時ニ於ケル現額ニ付キ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得何トナレハ斯ル現額カ破産宣告ノ當時ニ於ケル金銭の價格ナレハナリ

特定金額ノ支拂ヲ目的トスル債權ニシテ未タ返済期限ニ至ラサルモノハ破産宣告ニ因リテ法律上當然辨済期限ニ至リタルモノトス(第九八條第一項民法第

一三七條獨新破第六五條第一項)隨テ破産手續ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得此理由ヲ説明スル通俗ノ見解ハ辨済期限ハ元來支拂上ノ信用ニ基キ債務者カ破産シタルトキハ其信用ヲ喪失ス故ニ債務者ノ爲メニ辨済期限ヲ存在セザルノ理由ナシト云ヘルノ外或ハ清算ノ便益ノ爲メニ又ハ手續ヲ省略シ唯一ノ清算ニ依リテ處分スルヲ一般ノ利益ナリト云フニ歸スルモノノ如シ(主トシテ佛派學者ノ見解ナリ)

余輩ノ見解ニ依レハ破産手續ノ目的タル平等ナル破産債權者ノ間ニ嚴格ニ維持シ支拂期限前ノ債務者ヲ害シテ支拂期ニ達シタル債權者ノ支拂ヲ爲スヲ妨止スルカ爲メナリ斯ル法則ヲ是認セシムハ一般の強制執行タル破産ハ一面ニ於テ各債權者ノ總テノ満足ヲ得ントスル方法ヲ杜絶シ他ノ一面ニ於テハ支拂期以前ノ債權者ニ袖手傍觀ヲ強フルニ至ルカ爲メナリ斯ノ如ク支拂期限ノ未タ到來セサル債權ハ破産手續ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得レトモ其主張ノ範圍ハ理論上利息ヲ生スルモノナルト否トニ從テ各異ナレリト云ハサルヘカラス

期限附債權ニシテ利息ヲ生スルモノナルトキハ破産宣告ノ當時ニ於ケル元利合額ニ付キ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ヘシ面シテ利率カ法律上ノ利率ニ違セサル場合ト雖モ利息ノ割引ヲ爲スコトナシ蓋シ利息ノ發生ハ當然破産宣告ニ因リテ止息スルヲ以テナリ又利息ヲ生セサルモノナルトキハ理論上破産宣告ノ當時ヨリ支拂期限ニ至ルマテノ法定利息ヲ内拂タル金額ニ付キ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ヘシ而シテ破産宣告ノ當時ヨリ起算スル理由ハ利息ハ財團ニ對シ破産宣告ノ日ヨリ發生ヲ止ムレハナリ然レトモ我商法ハ佛國商法ト同シク無利息債權ニ關シテ利息割引ヲ認メサリシ其理由ハ計算上ノ不便ヲ來シ爲メニ破産手續ノ進行ヲ延滞セシムルノ恐アルノミナラス期限前ノ辨濟ハ必スモ債權者ノ利益ニ非スト云フニ在ルモノノ如シト雖モ現時支拂フヘキ債權ハ其額ヲ同シウスル一個年若クハ數個年後ニ支拂フヘキ債權ト同一債額ニ非サルコトハ敢テ疑ナキ所ナリ然ルニ之ヲ同一視シタルハ支拂期前ノ債權者ヲシテ破産ナル事實ヨリ特別ノ利益ヲ受ケシムルコトト爲リ破産ノ目的タル債權者間ノ平等ヲ破ルニ至ルヘシ故ニ獨逸破産法瑞西破産法西班牙

伊太利和蘭白耳義等ノ商法ニ於テハ破産宣告ノ時ヨリ辨濟期限マテノ法定利息ヲ割引シ以テ嚴格ニ債權者間ニ平等ヲ維持スルニ努メタリ特定年限ノ年金債ノ如キ特定ノ期間定期毎ニ特定金額ノ支拂ヲ目的トスル債權ハ各定期ノ支拂金額ヨリ利息ノ割引ヲ爲シタルモノノ總額ヲ以テ原本ト認ムルヲ理論上正當トス故ニ該總額カ破産手續開始ノ當時ニ於テ未タ支拂期ノ到來セサル部分ニ關スル該債權ノ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ヘキ金錢の債權ト云フヘシ」損害賠償請求權ノ如キ破産宣告ノ當時ニ於テ未タ金額ノ確定セサル債權及ヒ不確定ノ期間前節ノ(四)ノ解釋參考若クハ不確定ノ金額ニ付キ定期毎ノ支拂ヲ目的トスル債權ノ如キ破産宣告ノ當時ニ於テ未タ金額ノ確實ナラサル債權ハ破産宣告ノ當時ニ於ケル鑑定ニ依リテ金錢の債權ヲ定ム(獨新破第六九條)始期又ハ終期未必事變ノ發生ニ因リテ定マルヘキ不確定期限附債權ニ關シテハ獨逸破産法ハ鑑定ニ依リテ金錢の債權ヲ定ムヘキモノトシ(獨新破第六九條)瑞破第二一〇條停止條件附ノ債權ト同一ニ取扱フヘキモノト規定セリ我商法ハ單ニ辨濟期限ト云フニ止マリテ法文上何等ノ區別ヲ設ケサルヲ以テ支拂期限ノ

性質の債務者ノ利益ノ爲メニスルモノナルト又支拂期限ノ確定ナルト否トヲ問ハサルモノト論決セサルヲ得ス立法上ノ見解トシテハ瑞西破産法ヲ正當ト認ム

(ロ) 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル權利 特定物若クハ代替物ノ引渡ヲ目的トシ他物權ノ設定ヲ目的トシ債權ノ讓渡ヲ目的トスル權利等ノ如キ金錢ノ支拂ヲ目的トセサル權利ハ破産宣告ノ當時ニ於ケル鑑定ニ依リテ金錢の價格ヲ定ム我帝國ノ貨幣ヲ以テ定メラレサル金額ノ支拂ヲ目的トスル權利モ亦然リ

(二) 條件附破産債權ノ主張ノ範圍 破産手續ニ於ケル條件附破産債權ノ主張ノ範圍ハ我破産法ニ於テハ佛國商法ト同ク之ヲ規定セス然レトモ法理上之ヲ解スルニ難カラス解除條件附權利ハ破産手續ニ於テハ無條件ノ權利トシテ主張スルコトヲ得ヘキハ既ニ前ニ述ヘタル所ナリ故ニ解除條件附權利者ハ届出債權ノ金額ニ對スル配當ヲ受ク然リト雖モ條件成就ノ場合ニ於テ給付シタル目的物ノ返還ヲ確保スルカ爲メニ特約上破産シタル債務者ノ義務履行ニ解除條件附權利者ノ確保ヲ立ツルコトニ係ル場合ニ於テハ管財人ハ權利者カ其

義務ヲ履行セサル以上ハ配當額ヲ交付セス之ヲ供託セサルヘカラス而シテ供託ニ因リテ生スル利益ハ當然破産財團ニ屬スヘシ獨新破第六六條第一六八條第四項佛蘭西ノ「リオンカン」氏ハ解除條件附權利者ハ給付物ノ擔保ヲ供スル義務ヲ負フ何トナレハ解除條件ノ成就シタル場合ニ於テ權利カ無實力者ナルトキハ破産債權者團體ヲ害スルヲ以テナリト云フハ正當ノ見解ニアラサルナリ解除條件カ破産債權中ニ成就シタルトキハ權利ハ民法上ノ原則ニ依リテ消滅ス故ニ解除條件附權利者ニ配當額ノ給付アリタル場合ニ於テハ管財人ハ給付額ヲ不當辨濟トシテ破産財團ノ爲メニ取戻ササルヘカラス之ニ反シ解除條件カ破産手續ノ終局後ニ成就シタルトキハ解除條件附權利者ト競合シテ爲メニ配當額上ニ於テ損害ヲ受ケタル各破産債權者ハ條件附權利者ニ對シ求償權ヲ有ス(民法第一二七條)

停止條件附權利ノ主張ノ範圍 停止條件附權利ハ破産手續ニ於テ停止條件附破産債權者トシテ其金額ニ付キ主張スルコトヲ得獨新破第一五四條第一項而シテ該權利ハ先ニ述ヘタルカ如ク擔保ヲ要求スルニ過キサルヲ以テ配當額ハ

供託シテ之ヲ保存セサルヘカラス此供託ヨリ生スル利息ハ當然破産財團ノ利益ニ歸スヘシ停止條件成就シタルトキハ權利者ハ無條件ノ權利者ト爲ル隨テ配當額ノ支拂ヲ受ク之ニ反シテ停止條件カ成就セサルトキハ權利ハ民法上ノ原則ニ依テ消滅ス隨テ破産手續ニ加入スルノ權モ亦消滅ス故ニ保存セラレタル配當額ハ終局配當トシテ各破産債權者ニ配當セル(獨新破第一五四條第二項停止條件ノ成否カ數年間未定ナルトキハ破産手續ノ延滞ヲ來スヤ當然ナリ當事者ハ斯ル弊害ヲ協議上避クルコトヲ得ヘシ何トナレハ法律ハ之ヲ禁止セナレハナリ

三) 附帶的請求權ノ主張ノ範圍 債權者ハ主タル權利ト同等ニ左ノ權利ヲ附帶的請求權トシテ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得獨新破第六二條)

(イ) 費用 破産手續開始前ニ於テ權利上ノ滿足ヲ享有スヘキカ爲メニ起訴其他ノ方法ニ於テ債權者ニ生シタル裁判上并ニ裁判外ノ費用ハ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得殊ニ債權者ハ未タ負擔者ヲ裁判ヲ以テ確定セサル場合ニ於テモ破産宣告以前ニ發生シタル訴訟費用ヲ之クモ債權ト共ニ相手方ノ破

産ニ於テ届出ツルコトヲ得而シテ爭アルトキハ訴ヲ提起シテ訴訟費用ノ有無及ヒ數額ヲ確定セシムルコトヲ得但シ債權者カ破産宣告以前ニ於テ破産シタル債務者ニ對シテ繫屬シタル訴訟ヲ破産者其モノニ對シテ續行シ以テ破産手續ニ於ケル主張ヲ拋棄シタルトキハ當然費用ノ賠償ヲ破産手續開始以後ニ於テアルコト能ハサルナリ(獨新破第六二條第一項然レトモ破産手續開始以後ニ於テ債務者ニ生シタル費用ハ之ヲ破産手續ニ於テ有效ニ主張スルコトヲ得殊ニ破産手續開始以後ニ於テ發生シタル訴訟費用ハ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ス管理人カ民事訴訟ノ規定ニ從テ破産者ヲ承繼シテ訴訟ヲ續行シ訴訟費用ノ負擔ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テハ訴訟費用ハ破産財團ノ債務ト爲リ然ラサルモノハ破産財團ニ關係ナキ破産者ノ負擔トナル破産手續ニ加ハリタルニ因リテ債權者ニ生シタル費用モ亦然リ(債權者カ債務者ノ破産手續ニ加入スルカ爲メ支拂ヒタル代人ノ費用其他商法第千〇二十七條ノ訴訟費用ノ額何トナレハ斯ル費用ニ關スル權利ハ破産宣告以前ニ發生シタルモノニ非サルヲ以テ破産債權ト云フコト能ハサレハナリ尙ホ立法上ノ理由トシテ之ヲ認ムルト

キハ破産手續ニ於テ不當ニ債權ノ範圍ヲ擴張シ爲メニ異議ノ媒介ト爲ルノ恐アリト云フ者アリ(第一〇三二條獨新破第六三條第二項)

(ロ) 過怠的豫定賠償 主タル債務ノ不履行若クハ不當ナル履行延滞ノ爲メニ約定セラレタル損害賠償ハ其豫定額ニ付キ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得何トナレハ豫定ノ損害賠償ハ債務ノ不履行ニ基ク損害賠償ニ代ルモノナリヲ以テ破産手續上之ト同等ノ權利ヲ有セサルヘカラサレハナリ而シテ豫定賠償ハ債務ノ不履行カ破産手續開始以後ニ發生シタル場合ト雖モ停止條件附權利トシテ破産手續ニ主張スルコトヲ得ヘシ何トナレハ豫定賠償請求權ハ既ニ主タル債務ノ履行期前ニ於テ條件的ニ成立シタルモノナレハナリ

(ハ) 利息 破産宣告ノ當時マテニ發生シタル利息ハ約定タル法定タルトニ拘ラス破産債權ノ一部分ヲ爲スヲ以テ有效ニ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得(第九八八條民法第四九一條獨新破第六二條第一號破産宣告當日ノ利息ハ破産手續ニ於テ主張スルコト能ハサルヘシ何トナレハ破産宣告當日ノ利息ハ法理上破産宣告ヲ爲シタル日ノ經過ト同時ニ發生スルモノニシテ且ツ一日ニ滿タサ

ル利息ハ取引上之ヲ認メラレサルナリ是レ我商法第九百八十九條ニ於テ破産宣告ノ日ヨリト云フ所以ナリ故ニ破産宣告當日ヨリノ利息ハ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ス(獨新破第六三條)何トナレハ破産宣告以後ニ於ケル利息ハ破産債權ニ非サルヲ以テナリ

(四) 多數當事者債權ノ主張ノ範圍 此範圍ヲ知ルニハ二人以上ノ共同債務者カ同時ニ之ハ順時ニ時ヲ異ニシテ破産シタル場合ト共同債務者中ノ一人ノミカ破産シタル場合ニ分テテ説明スルヲ便宜トス左ニ之ヲ分説スヘシ

(イ) 二人以上ノ共同債務者カ同時又ハ順時ニ破産シタル場合 此場合ニ於テハ債權者ハ各債務者ノ破産ニ其宣告ノ當時ニ於テ有スル債權全額ニ付キ届出ヲ爲スコトヲ得(第一〇三二條第一項獨新破第六八條獨新破第二一六條故ニ第一ニ債權者ハ二人以上ノ共同債務者ノ破産宣告以前ニ於テ各共同債務者及ヒ第三者ヨリ配當の一部辨済又ハ任意の一部辨済ヲ受ケサルトキハ各破産手續ニ於テ債權全額ノ主張ヲ爲スコトヲ得是レ共同債務ノ性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリ第二ニ債權者ハ二人以上共同債務者ノ破産宣告以後ニ於テ他ノ共同債務者

ヨリ任意の一部辨濟又ハ其破産財團ヨリ配當の一部辨濟ヲ受ケタル時ト雖モ該辨濟額ヲ控除スルコトナクシテ破産宣告ノ當時ニ於ケル債權全額ノ届出ヲ爲スコトヲ得可分の履行ヲ許ス共同債務ノ一部辨濟ハ民法上一部消滅ノ效力アルニモ拘ラス獨民第四二二條第一項破産法上債權ノ届出ニ何等ノ影響ヲ及ホス所ナキ理由ハ先ニ述ヘタルカ如ク共同債務ノ性質ヨリ當然生スルモノニ非スシテ立法上條理ニ適シタル者トシテ認メラレタルニ在リ蓋シ斯ル法則ヲ採用セスンハ債務者ハ總共同債務者ノ實力ナキ場合ニ當リテ多數ノ破産財團カ共同シテ百分ノ百ノ割合ニ於ケル配當額ヲ供スルニ足ル場合ト雖モ當ニ損失ヲ受タルヲ以テナリ可分の履行ヲ許ササル不可分債務關係ニ於テ債權カ配當一部辨濟ヲ受ケタル場合モ亦然ラン民法第四三〇條第四四一條

第三者ノ爲シタル一部辨濟モ亦同一ノ法理ニ基キ同一ニ論決スヘシ元來配當の一部辨濟額ヲ控除セスシテ各破産ニ届出ヲ爲ス法則ハ佛蘭西ニ於ケル法律發達ノ結果トシテ發生シタルモノト信ス同國ニ於テハ當初ザバリ「主義千六百七十三年ノ商事勅令ノ起草者タルザバリ」氏行ハレタル同主義ハ債權全部

品ト認メサルヘカラス故ニ贅澤品ノ必要品ノ區別ハ相對的ノモノニシテ絕對的ノモノニアラス千萬人ノ者ニ取リテ同一ナルニアラス人ニ依リ階級ニ依リ國ニ依リ階級ニ依リテ異ナル之カ區別ヲ立ント欲スル者ハ此點ニ注意スルヲ要ス其レ然リ矣然リト雖モ更ニ退テ考フレハ是レ兩種ノ物品中極メテ接近シタルモノニ付テノ觀察ナリ雙方ノ極端ニ位スルモノニ至リテハ之ヲ區別スルコト全ク出來得ヘカラスニアラス(一六)

(一七) 必要品贅澤品ノ區別ハ人ニ由リ階級ニ由リテ異ナルモノナルヲ以テ此點ニ付テ區別スヘキコトヲ要ス然レトモ退テ考察スルトキハ極メテ接近シテセル物ニ付テ然ルノミ極端ニ位スル諸物ノ間ニ於テハ幾分カ區別シ易キモノナリ例ヘハ米ト金剛石ノ指環ノ如キ即チ判別シ易キ一例ナリ

抑モ人類ノ禽獸ト異ナル點ハ種種アリ倫理學者ハ之ヲ良心良智ノ有無ニ歸シ動物學者ハ身體ノ構造歩行ノ狀態ニ在リトス其他種種様樣ナル點ニ付テ異ナル所ヲ列舉スルコトヲ得ヘシ而シテ經濟學上ヨリ觀察スレハ人類ノ禽獸ト異ナル點ハ其欲望ノ大ニシテ且ツ高尚ナルニ在リト謂ハサルヘカラス是レ實

ニ著明ナル事實ニシテ更ニ疑フヘカラス(二)也人類ノ欲望ハ社會ノ進歩ト共ニ
(三)也 人間ト禽獸トノ異ナル所多キハ勿論ナレトモ其異ナレハ要點ハ觀察
ノ方面ニ由リテ固ヨリ異ナラザルヲ得ス倫理家ハ人間ニハ靈魂ニ伴ヘル良
智良心アルノ點ヲ以テ動物學者ハ身體ノ組織及ヒ歩行ノ狀態ノ異ナレル點
ニ在リトセリ然レトモ退テ考フレハ所謂歩行ノ異ナレル所ハ彼ノ進化說ニ
依レハ却テ人間ト獸類ノ近似セル所ヲ證明スルモノナラン即チ四足ヲ有セ
ル獸類カ前ノ左足ヲ前進スルトキハ次ノ後ノ右足ヲ前ニ進メ其右足ヲ前進
セルトキハ次ヲ後ノ左足ヲ前ニ進ムルカ如キハ人間ノ走ルトキニハ手足ヲ
互ニ前後シテ進ムト頗ル相似タルモノアリ殊ニ至リテハ最モ人間ト相
似タル點多キヲ見ルヘシ人間ノ下等動物ヨリ進化セリトノ說ハ今日一般ニ
認ムル所ナリト雖モ此等ハ茲ニ詳論スルノ必要ナシ然リ而シテ經濟學上ヨ
リ論スレハ人間ノ欲望ハ至大ニシテ且ツ高尚ナルモノ下等動物ノ欲望ハ極メ
タ下品ニシテ其分量モ亦至テ少シ極論スレハ下等動物ハ殆ト無欲ナリト云
フモ謬言ニアラサルナリ

漸漸其數ニ於テモ増加シ其種類ニ於テモ亦年年歳歳高尚ニ赴ク其レ然リ欲
望ナルモノハ人類ノ進化ニ伴フテ増加シ且ツ進化スルモノナルヲ以テ原始
時代ノ有様ヲ觀レハ野蠻人ノ欲望ノ極メテ簡單ナルヲ知リ文明社會ノ狀態
ヲ察スレハ其頗フル錯雜ナルヲ知ルハ易易タル事ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ
欲望ノ増加其物ハ原理上決レテ憂フヘキモノニアラス其上下何レノ階級ニ
及ホス影響モ通常弊害ナクシテ却チ大ニ生計ノ程度ヲ上進シ且ツ一方ニ於テ
ハ生計ノ程度ノ上進ニ伴フモノナレハ歡迎スヘキモノナリ(一)然レトモ左ノ
(二) 野蠻人ハ其欲望甚タ簡單ナレトモ文明人士ハ極メテ複雜ナル欲望
ヲ有スルモノナリ然レトモ是レ決シテ憂慮スヘキモノニアラス或漢學者ノ
如キハ今日文明日進ノ狀態ヲ目シテ世人ノ貧澤ニ流ルルヲ嘆息セリト雖モ
是レ畢竟皮相ノ見ノミ方今欲望ノ往昔ヨリ増加セルハ其實經濟上ノ實力發
達シタルニ基クモノニシテ決シテ憂フヘキモノニアラス又近來各地ノ農民
カ稍ヤ貧澤ニ爲レルヲ見テ直チニ地租増徴ヲ主唱スル者ナキニアラサレト
モ余ヲ以テ之ヲ觀レハ彼等ノ貧澤ハ近年米價ノ騰貴シタル結果トシテ其實

カヲ發達シタルニ因ルモノナリ試ニ論者ノ説ヲ其反而ヨリ觀察スルトキハ農民ハ他マテ原始ノ狀態ヲ其儘ニ保守セヨト云フニ均シ豈ニ討論ナラサラシヤ余ハ寧ロ現在ノ狀態ヨリ尙ホ一層高尚ニ進メサルヘカラスト思惟スル者ナリ富ノ中央集權ハ余ノ從來希望セサル所ナリ

事情之ニ伴フ時ハ社會國家ノ盛衰上頗ル憂フヘキコトナリトス

第一 不道德ノ欲望大ニ増加スルコト(二九)

(二九) 今不道德ノ欲望ノ一二ヲ舉クレハ漫ニ酒色ヲ欲スルカ如キ弄花ヲ欲スルカ如キノ謂ニシテ人ノ生計ヲ増進スル正當ノ方法ニアラサルモノ即チ是ナリ

第二 種種ノ欲望他ノ經濟上ノ事情ニ全ク關係ナクシテ突然發達スルコト

經濟上ノ進歩之ニ伴ハスシテ奢侈ノ風一般ニ流行スルカ如キノ即チ是ナリ(三〇)
(三〇) 經濟上ノ進歩ナキニ漫ニ奢侈ノ風行ハルルカ如キノ即チ第二ノ弊害ナリ例ヘハ農民ノ現時ノ生活ハ相當ナルヘキモ其經濟上ノ實力ハ昔時ト同一ナルニモ拘ラス濫ニ郡人士ノ風ニ習フニ至ルカ如キノ即チ是ナリ

第三 肉體上ノ欲望ノミ獨リ増加シテ精神上ノ欲望少シモ進歩セス人心腐敗ノ傾向アルコト 是レ第一ノ事情ト頗ル密着ノ關係ヲ有シ多ク場合ニ於テハ殆ト同一ナリ唯二者ノ別ハ其觀察點ヲ異ニスルノ差異ニ據ルノミ(三一)

(三一) 是レ第一ノ不道德ノ欲望ノ進歩ト殆ト同一ニシテ唯其異ナル所ハ觀察ノ點ニ在ルノミ肉體上ノ欲望トハ美麗ナル衣服ヲ着シ佳味ヲ食ヒ宏壯ナル家屋ニ住スルカ如キノ欲望ニシテ取りモ直サス羅馬ノ末路ニ當リ盛ナリシカ如キ狀態ヲ謂フナリ

第四 欲望ノ増加ニ隨伴シテ人々ノ勞働力、思考力共ニ衰ヘ進取、活潑ノ氣象微

微トシテ振ハサルニ至ルコト(三二)

(三二) 勞働力、思考力進取ノ氣象ノ衰フルトキハ自然怠惰ニ流ルルコト一般ノ常態ナリ而シテ是等ノ力ノ減衰スルトキハ社會ノ進歩發達ハ止マルモノトス

第五 欲望ヲ満足セシムルニ唯浪費奢侈ノ一法アルノミニ至ルコト(三三)

(三三) 欲望ヲ満足スルハ必ス浪費奢侈ヲ是レ事トスルヨリ外ナキニ至

ルトキハ其極終ニ破産ヲ見ルニ至ラサレハ止マサルヘシ是レ固ヨリ不可ナ
リ而シテ此事情ハ第二ノ事情ト殆ト同一ナレトモ兩者ハ觀察點ヲ異ニス
以上五個ノ事情ハ互ニ相交又セルモノナリ故ニ一ノ事情中ニ自ラ他ノ事情
ノ包含セラルルコトアルヘシ是レ實ニ大體ヨリ區別セルニ過キサルノミ
右五個ノ事情ヨリ生シ或ハ之ト密着ノ關係ヲ有スル一大弊害ハ徒ニ華美ヲ競
ヒ物品ノ品柄ヲ兎ヤ角言ヒ漫然時時ノ流行ニ心醉スルニ在リ(四)而シテ人事
(四) 欲望ヲ滿スニハ業既ニ充分ナルニモ拘ラス或ハ物品ノ品質ヲ選ミ或
ハ毫末ノ實用タモナキ華麗ナル裝ヲ爲シ又時時ノ流行ヲ追フヲ進マントス
ルハ方今殆ト普通ノ常態ナリ例ヘハ流行ノ骨董品ヲ流行ノ植物トシ云ヘハ
一品ノ骨董一鉢ノ蘭ニ往々數百金ヲ投シテ願ミサルカ如キ只當時流ニ後レ
サランコトヲノミ期スルハ或程度マテハ格別不都合ナカルヘシト雖モ大ニ
警戒セサルヘカラサルコトナリトス

ノ意ノ如クナラサルヤ右ノ如キ事情往往欲望ノ増加ニ伴フ殊ニ進歩ノ迅速ナ
ル社會ニ於テ甚シ是レ實ニ憂慮スヘキ事ナリ然レトモ之ヲ以テ社會進歩ノ

當然ノ結果タル欲望ノ増加其物ヲ非難スヘカラス(五)

(五) 人間社會ノ事タル兎角意ノ如クナラスセテ欲望ノ増加ニ伴フテ往往
上述ノ如キ弊ヲ生スルモノナリ殊ニ過渡時代ノ社會ニ在テハ一層甚シキ弊
害アルヲ見ルヘシ然レトモ是レ欲望ノ増加其物ノ罪ニアラス唯之ニ附着セ
ル弊害タルノミ經濟タルモノハ之カ區別ヲ明カニシテ之カ矯正ノ任ニ當ラ
サルヘカラス所謂坊主ヲ惡ミテ袈裟ニ及フカ如キコトアルヘカラス欲望ノ
増加ハ寧ロ社會進歩ノ自然ノ結果タルノミ

以上欲望ノ原則ヲ講了セリ是ヨリ此原則ハ本邦近時ノ狀態ニ照シテ如何ナ
ルモノナルカラ説明スヘシ

余ハ實ニ近時欲望ノ増加ト國民經濟ノ發達トニ伴フテ種種ノ弊害相踵テ發
生セルノ感ヲ懷ク者ニシテ之ヲ禁セント欲スルモ得ヘカラス之ヲ換言スレ
ハ人人ノ實力ニ不相當ナル欲望大ニ増加シ人心日日ニ奢侈ニ流ルルノ恐ア
リ殊ニ戰爭後ヲ甚シトス之カ爲メ物價騰貴ノ趨勢大ニ助長セタルヤ疑ナ
キカ如シ人或ハ本邦ノ近狀ヲ以テ羅馬ノ末路ニ比スル者アリ是レ少シク過

大ノ斷定タルニ失シ余ハ今日ノ聖代ニ在リテ固ヨリ此ノ如キ不祥ノ言ヲ爲スヲ欲セス事口近時ノ狀態ヲ以テ本邦維新以來ニ於ケルカ如キ一般社會變遷ノ時代ニハ往往免ルヘカラサルモノト覺悟スルノ却テ至當ナルニアラスヤト考フル者ナリ或人ノ言少シク杞憂タルヲ免レサルカ如シ然レトモ人ヲシテ愛國憂世ノ至情終ニ此言ヲ發セシムルニ至レル社會ノ狀態ハ大ニ之ヲ歎息セサルヘカラス世ノ先覺者タル者當ニ後進者ヲ誘導シテ國民奢侈ノ弊風ヲ矯ムルニ勉ムヘシ

近時ニ於ケル奢侈ノ狀況大畧左ノ如シ

第一 世ノ所謂紳士紳商等邸宅別荘等非常ニ増加シ中ニハ往往之カ爲メ借財ヲ爲シ困却セルモノアルカ如シ就中意外ナルハ最モ質朴ヲ貴ハサルヘカラサル軍人中ニ往往戰爭後得意ノ餘勢ニ乘シ徒ニ華美ヲ事トシ「モルトケ」派ノ美風ヲ忘レ古名將ノ遺訓ヲ奉セサル者アルコト即チ是ナリ

第二 學生ノ費消スル所明治十六七年ノ頃ニ比シ平均殆ト四倍以上ニ爲レルコト明治十六七年ノ頃ニ在リテハ學生ノ宴會ハ大抵飛鳥山カ日比谷原

ナリシカ今日ノ宴會ノ會場ハ大抵料理屋ナリ又其頃多クノ學生ハ毎月一回ツツ位ハ遠足會ヲ爲シタリシカ其會費ハ僅ニ參錢位ツツナリシ然レトモ遠足會ハ宴會ノ目的ハ十分ニ之ヲ達スルコトヲ得タリ惟フニ學生モ亦近時ニ至リ世間一般ノ風潮ニ感染シタルモノナラン歟

第三 輸入品中幾分カ生計ノ程度ノ正當ナル上進ニ伴ヒ幾分カ奢侈ヲ増加ヲ證スル物ノ輸入増加シタルコト(食糧制度調査會報 告三七〇頁參照)

第四 諸縣ニ於テ人民ノ生計及ヒ冠婚葬祭ニ關スル費用ノ増加セルコト(同報告三七一頁乃至三七五頁參照)

第五 所謂不生産的營業並ニ同營業者ノ増加セルコト(同報告三七〇頁參照)此等ヲ外ニスルモ事實ハ更ニ之ヨリ尙ホ大ナルモノアリ加之近日ノ傾向ハ拜金宗ノ風潮ヲ生ヒリト雖モ眞ノ拜金宗ナレハ尙ホ恕スヘキモ奢侈ヲ爲スカ爲メニ所謂僥倖心ノ發達セルモノナキニシモアラス余ハ今一一之ヲ明言セサルヘシト雖モ誠ニ慨歎ノ外ナキナリ

第二章 財貨(一)

(一) 財貨トハ獨逸語ノ「ギュータル」(Güter) 英語ノ「グーズ」(Goods)ヲ譯セタル語ナリ蓋シ相集リテ富ヲ爲スモノナリ富トハ獨逸語ノ「ライヒツム」(Reichthum) 英語ノ「ウェルス」(Wealth) 該當スルモノナリ然レトモ獨逸語ノ「ライヒツム」ハ之ヲ詳細ニ吟味スルトキハ單ニ財貨ノ相集マレルコトトハ少シク其意義ヲ異ニセリ英語ノ「ウェルス」ハ富ヲフ字ト同シク頗ル曖昧ノ意義ヲ有セリ元來財貨ノ相集合セルモノハ獨逸語ニ之ヲ「フェルミユーゲン」(Vermögen)ト云フヲ最モ適當トス英語ニテ之ニ該當スル語ハ其法律上ノ意義ヲ有スル場合ノ外之ナシ抑モ「フェルミユーゲン」ニハ二義アリ(一)財貨ノ集合セルモノ(二)財産即チ是ナリ英語ノ「ウェルス」ハ財貨ノ集合體ニハ少シク適當セサル所アリ余ハ從來獨逸語ノ「ギュータル」ヲ譯シテ貨。財ト云ヘリ然レトモ貨財トハ多ク集合セルモノニ用ヒラル語ニシテ殆ト富ト同意義ノモノナルヲ以テ一昨年来之ヲ財。貨ト改メタリ而シテ財貨ハ畢竟相集リテ富ヲ組成スルモノナリ

財貨トハ如何ナルモノナルヤニ關シテ古來學者間ニ種種ノ議論アリ「マッシーエル」氏ハ之ニ定義ヲ下シテ曰ク「財貨トハ世人ノ認メテ以テ人類ノ真正ナル欲望ヲ直接又ハ間接ニ満足スルニ要用ナリト爲ス所ノモノナリ」此定義中ニハ欲望ノ上ニ故ラ「真正ナル」形容詞ヲ用ヒテ總テ真正ナルサル欲望徳義人道ニ背反セル欲望ヲ滿スモノヲ全ク財貨ノ範圍外ニ置キ之ト同時ニ經濟學全體ノ根本概念ヲ單ニ心理的研究ノ目的物タラシムルノミナラス兼テ又倫理的研究ノ目的物タラシメンコトヲ期セリ然リト雖モ既ニ「クニース」ワグネル等諸氏カ非難シタルカ如ク「ロツシエル」氏ノ定義ハ恐ラクハ其當ヲ得サルヘシ第一「氏ノ定義中世人ノ認メテ」云云トノ條件ヲ故ラニ附加セルカ如キハ全ク贅事タルヲ免レスシテ定義ハ簡短ニシテ明瞭ナルヘキノ趣旨ニ背反セルモノト謂ハサルヘカラス畢竟財貨ハ人ニ認メラレテ始メテ成立シ人ニ對スル關係ニ依リテ存在シ人ヲ離レテハ決シテ單獨ニ存在スルモノニアラサルノミナラス總テ經濟上ノ事ハ人ト分離シテ語ルヘキモノニアラス故ニ世人ノ認メテ云云ノ文字ハ財貨ノ定義中ニ入ルルニ及ハサルモノナリト

謂ハサルヘカラス(二)

(二) 從來英國派ノ學者カ德義ト經濟トハ全然關係ナキカ如ク主張セシモ兩者ハ其實大ナル關係ヲ有スルモノナリ故ニ不道德ナル欲望ヲ滿スニ要用ナルモノハ財貨ニアラスト是レ「ロツシエル氏」ノ定解スル所ナレトモ所謂不道德ナル欲望ヲ滿スニ要スル所ノモノハ財貨ニアラスト解スルトキハ大ナル不都合ヲ生スヘシ「ロツシエル氏」ノ此定義ハ宜シク之ヲ修正セサルヘカラス顯フニ「ロツシエル氏」ノ所謂真正ナル欲望ヲ滿スモノト雖モ財貨ナルヲ失ハス若シ夫レ斯ル欲望ヲ滿スモノハ不道德ナルノ故ヲ以テ財貨ニアラスト爲サハ之ヲ如何ニ名稱スヘキカ例ヘハ非常ナル豪奢ヲ極メント欲スルカ如キハ「ロツシエル氏」ヲ言ハシメハ不道德ノ欲望ナルヲ以テ之ヲ滿スモノハ財貨ニアラスト決定スルナラン然レトモ之ヲ財貨ニアラストセハ經濟學ニ於テ論スルコトヲ得サルニ至ラン然ラハ即チ何レノ學問ニ於テ之ヲ論究スヘキ歟蓋シ經濟學ヲ外ニシテハ之ヲ攻究スルノ學科ナカルヘシニ真正ナル欲望ヲ滿足セシムルモノノミヲ以テ財貨ト爲スハ大ニ誤レリ何

トナレハ財貨其物ハ決シテ善惡正邪ニ關係ナシ苟モ欲望ノ存在スル以上ハ其所謂真正ナルト否トニ拘ラス其不道德ナルト然ラサルト問ハス之ヲ滿足セシムルニ適當ナルモノハ之ヲ財貨ト名クルヨリ外ニ名案ナケレハナリ此ノ如キモノヲ以テ財貨ニアラストセハ抑モ是レ之ヲ何ト名ケテ可ナルヤ又之ニ關スル學問ハ果シテ如何ナルモノナルヤ此ノ如キモノト雖モ畢竟皆財貨ナルニ過キス之ニ關スル學問ハ結局經濟學ノ外ニ一モ之アラサルナリ況ヤ欲望ノ「真正ナル」ト否トヲ分別シ不道德ナルト然ラサルト決スルハ到底絕對的ニ爲シ能ハサル事ナルニ於テヤ又況ヤ同一ノ財貨ニテモ場合ニ因リ自然の必要ノ欲望ヲ滿スコトアリ奢侈の不道德ノ欲望ヲ滿スコトモアルニ於テヤ加之經濟學全體根本ノ概念ヲシテ單ニ心理的研究ノ目的物タラシムルノミナラス兼テ又倫理的研究ノ目的物タラシムルヲ要スルモノト爲スノ點ヨリシテ見ルモ「真正ナル」ノ形容詞ハ毫モ其必要ヲ見サルナリ社會經濟ノ倫理道德ト矛盾スヘカラサルハ言ヲ俟タス是レ財貨モ欲望モ皆人生生活ノ大本ニ從ハサルヘカラサルヲ知ラハ隨テ自ラ明カナルヘキナリ故ラニ「真正ナル」ノ文字ヲ欲望

ノ上ニ冠ラシムルノ必要果シテ何處ニカアル「ロ氏ノ定義ハ之ヲ畢竟加フルニ及ハサル文字ヲ加ヘテ徒ニ冗長ニ流ルルノ過失ニ陷リシモノト断定セサルヘカラス」(三) 故ニ余ハ財産ニ與フルニ少シク異ナレル定義ヲ以テセント欲ス曰ク

(三) 既ニ論シタルカ如ク「ロ氏ノ定義ハ奇怪ナル結果ヲ生スルニ至ルヘシ而シテ經濟學全體ノ根本概念ハ之ヲ以テ心理倫理ノ諸學ト密着ノ關係アルモノト爲スニ在リ此點ヨリシテ財貨ノ定義中ニ之ヲ明カニセントシタルハ全ク贅事タリ抑モ眞正ナル」ノ文字ヲ附加スルニアラスンハ經濟現象カ心理及ヒ倫理ト密着ノ關係アルコトヲ明カナラシムル能ハサルモノナラシメハ之ヲ附加スルノ必要アルヘシト雖モ經濟學上ノ行爲ハ倫理ノ大本ニ從ハサルヘカラサルコトハ當然ニシテ今更ラ言フヲ俟タサル所ナリ何トナレハ經濟學ハ人間ヲ離レテ成立シ得ヘキモノニアラス人間社會ノ必要ヨリ生シタルモノナレハ人間處世ノ大本タル倫理ト關係ヲ斷ツヘカラサレハナリ尤モ多衆人中ノ事事物物ニ付テ觀察スルトキハ往往不倫不道ノ事ナキニアラスト雖モ大體ヨリ論スレハ人生生活ノ倫理ノ大本ニ基ケルコト瞭トシテ明カナリ

是故ニ「ロ氏ノ定義ハ全ク誤レルニハアラサレトモ定義ノ原則ニ適合セサルモノト謂ハサルヘカラス

財貨トハ總テ人類ノ欲望ヲ滿スニ適當ナルモノナリト」(四) 此定義ニ從ヒ財貨

(四) 余ノ定義モ「ロ氏ノ定義ト大ナル差ナシト雖モ財貨トハ總テ所謂不道德ナルト不正ナルト同ハス欲望ヲ滿スニ足ルモノナリト謂フヲ以テ主眼トス又定義中ニ「適當ナル」ト曰フヲ「滿ス」ト曰ハサルハ滿スノ事實アルヲ要セス欲望ヲ滿スニ適當ナルモノナレハ欲望ヲ滿スノ事實ナキモ財貨タルヘキヲ以テナリ例ヘハ米ハ元來財貨ナルモ航海中ニ沈没スルトキハ其米ハ魚腹ニ葬ラルルモ財貨タルノ性質ヲ失ハサルカ如シ

ノ種類ヲ分ツコト如何是レ自ラ標準ニ依リテ異ナリ種種ノ分類法アリ得ヘク又實際之アリトス而シテ余ノ以テ最モ要用ナル分類法ト爲スモノハ財貨ヲ分チテ二ト爲スニ在リ(五)

(五) 今前掲ノ定義ニ依リテ財貨ヲ分類スレハ一ハ内部ノ財貨ニシテ他ハ外部ノ財貨ナリ然レトモ余ハ之ヲ内界ノ財貨及ヒ外界ノ財貨ト稱セントス

第一 内界ノ財貨一ニ之ヲ無形ノ財貨ト云フ(六)

(六) 内界ノ財貨ハ一ニ又無形ノ財貨ト稱ス然レトモ無形ノ財貨ト云フハ穩當ナラス何トナレハ内界ノ財貨ノ中ニモ亦有形ノ財貨アルヘケレハナリ故ニ内界ノ財貨ト名ケタリ

内界ノ財貨トハ人人ノ心身其物ニ附着シテ賣買讓與スヘカラサルモノナリ腕力智識藝術性質等ハ此種類ニ屬ス此等ハ實ニ賣買讓與スヘカラサルモノナリ然レトモ其形狀ヲ一變シテ所有主ノ勤勞ト化スルトキハ他人ニ對シテ外界ノ財貨タルヲ得ヘシ(七)

(七) 内界ノ財貨トハ人間ノ身體又ハ心界ニ附着シテ分離スヘカラサル人間固有ノモノナリ故ニ如何ナル高價ヲ以テスルモ之ヲ賣買スルヲ得ス故ニ普通ノ場合ニ於テハ之ヲ經濟學上ニ於テ論スルノ限ニ在ラス然レトモ其形狀ヲ變シテ所有主ノ勤勞ト化シタルトキハ他人ニ取リテハ即チ外界ノ財貨ト爲リ自己ニ取リテハ依然内界ノ財貨ナリ例ヘハ車夫ノ力ハ車夫其者ノ爲メニハ賣却シ讓與スルコト能ハスト雖モ一時其雇主ノ爲メニハ

ハ固ヨリ勞働者ノ自由ナルヲ以テ厚給ヲ與フルコトニ因リテ雇主ノ得ル所ノ利益ハ家畜ノ持主カ家畜ニ佳良ナル食物ヲ十分ニ投與スルコトニ因リテ得ル利益ノ如ク確實ナルモノニアラサルナリ次ニ智力ノ多少ハ天稟及ヒ教育ノ如何ニ因リテ定マルモノナリ高等ナル智力ノ主要ナル要素カ智力ナルコトハ何人モ許ス所ナレトモ下等勞働者ニ對スル智力ノ必要モ亦機械使用ノ普及スルニ從ヒ益々増加スルモノナリ又道德ノ高低ハ教育及ヒ社會ノ制裁ノ如何ニ因リテ定マルモノナリ而シテ或種ノ智力ハ道義心高キ者ニアラサレハ爲シ能ハサルモノナリ又普通ノ力役者ト雖モ德義心強キ者ナレハ管ニ其智力ノ直接ノ效果大ナルノミナラス之ヲ監督スル智力ヲ節約スルコトヲ得ルノ利益アリ

第二 勞働心ノ強弱

勞働心トハ吾人ヲ衝動シテ勞力ニ從事セシムル念慮ヲ云フ而シテ此念慮ノ強弱如何ハ勞力ノ生産力ニ大關係アルモノナリ勞働心ノ盛ナルト否トハ(1)吾人ノ有スル欲望ノ多少ト其強弱(2)勞力ニ依リテ得ル所得ノ多少ト其強否ニ因リテ定マルモノナリ蓋シ吾人ノ有スル欲望ノ多

少ト其強弱トハ貨物既得ノ分量及ヒ其種類ニ關スルコト大ナリト雖モ文明ノ程度及ヒ人種ノ如何ニ因リテモ亦大差ヲ生スルモノナリ支那人ノ如ク非常ニ富ヲ欲スル情ノ盛ナル者ハ南洋ノ土人ノ如ク欲望ノ少キ者ニ比スレハ勞働心強盛ナリ又勞力ニ依テ得ル所得ノ多少ト確否ノ如何トニ因リテ勞働心ノ強弱ヲ來ス實例ハ奴隸カ自由ノ勞働者ニ比シテ勞働心極メテ微弱ナルト自由勞働者ノ中仕事高賃銀又ハ利益ノ分配ヲ受クル勞働者カ時間拂賃銀ヲ受クルモノニ比レテ勞働心概シテ強盛ナルコトニ因リテ之ヲ見ルコトヲ得ヘシ

第三 勞力ノ協同

勞力ノ協同トハ生産上人人カ一部分ニ其勞力ヲ適用シ互ニ相倚リ相助ケテ共同生活ヲ營ム社會上ノ組織ヲ云フ面シテ此組織整備スルトキハ大ニ勞力ノ生産力ヲ大ナラシムルモノナリ

勞力ノ協同ハ之ヲ分チテ單純ナルモノト複雑ナルモノトノ二種トス

單純勞力ノ協同トハ一名合業ト稱シ多數ノ人カ聯合シテ同時ニ或一事業ニ從事シ各人ノ分擔スル仕事ノ種類同一ナル場合ヲ云フ此種ノ勞力ノ協同ハ各人孤立

シテ爲ストキハ豫メ複雑ナル裝置ヲ要シ又ハ多クノ時間ヲ要スル等ノ點ヨリシテ縱令技術上之ヲ實行シ得ヘシトスルモ經濟上殆ト爲セ能ハサルコトニ屬スル仕事ヲ極メテ簡便ニ仕達クルコトヲ得セシムルノ利益アリ而シテ此方法ハ漁業土木建築ノ際重大ナル物品ヲ處置スルカ爲メニ屢實行セラルモノナリ複雜勞力ノ協同トハ一名分業ト稱シ一群ノ人カ種種ノ貨物ヲ作出スルニ當リテ各人其爲ス所ヲ異ニシテ相倚リ相助ケテ生産ノ目的ヲ達スル場合ヲ云フナリ例ヘハ農夫ハ穀物ヲ作り大工ハ家ヲ建テ機屋ハ布ヲ織リ出シテ各人相倚リテ彼等ノ要スル貨物ヲ作出スルカ如キ或ハ零烟草ヲ製造スルニ當リ或人ハ業烟草ヲ摘ヘ或者ハ之ヲ刻ミ他ノ者ハ之ヲ卷クカ如ク其爲ス所ノ仕事ヲ異ニシテ一種ノ貨物ヲ作出スルカ如キヲ云フナリ之ヲ勞力ノ協同ト云ヒ又ハ分業ト稱スルハ之ニ從事スル一群ノ人類全體ヨリ觀レハ一層都合ヨク生産ノ目的ヲ達スルカ爲メニスル協力ノ方法ニ外ナラサレトモ各人其爲ス所ヲ異ニスル點ヨリ觀レハ分業ト稱スルモ亦不可ナケレハナリ分業ノ利益トシテ古來學者ノ列舉スルモノハ左ノ如シ

- 一 勞力者ノ熟練ヲ増ス
分業ノ組織ニ由リ人人或一種ノ仕事ニ從事スルトキハ其事ニ關スル經驗ヲ重
キテ益熟練ヲ増スモノナリ
- 二 勞力者ノ修練ノ期間ヲ短縮ス
分業組織行ハルルトキハ各勞働者ノ習得ヲ要スル仕事ノ範圍大ニ縮少スルカ
故ニ修練ノ期間短クシテ其職業ニ堪能ナル勞働者ト爲ルコトヲ得ヘシ
- 三 各人ヲシテ其能ヲ盡セシム
困難ナル仕事ハ強壯熟練ナル勞力者之ニ當リ容易ナル業務ハ婦女老幼ヲシテ
擔任セシムルコトヲ得ヘシ今世紀ニ至リテハ紡績綿布等ノ自動機械ヲ使用ス
ル工業ニ從事シタル十八歳以上ノ男工ハ其位置ヲ女工ニ譲リ鑛山鑄造所運搬
業ニ轉シタルモノ甚タ多シ
- 四 時間ノ空費ヲ免ル
勞力者カ屢々其從事スル仕事ヲ轉換スルトキハ其度毎ニ使用スル道具器械ヲ換
ヘ他ノ仕事場ニ移リ若クハ新仕事ニ着手スル前ニ當リテ免ルコト能ハサル

多少ノ躊躇ト新ナル仕事ニ着手シタルトキニ感スル仕事ノ難澁トニ因リテ時
間ヲ空費セシムルモノナリ

五 資本ノ利用ノ増加

一人ニテ數多ノ仕事ヲ實行スルノ必要アルトキハ各種ノ道具ヲ備ヘ置キ或一
種ノ仕事ヲ實行スル間ハ多數ノ道具ハ全ク使用セシテ放置セラルル場合多
カルヘシ然ルニ各人特種ノ仕事ニ從事スル場合ニハ其弊ヲ免ルコトヲ得ル
ノミナラス職業習熟ノ期間短キカ故ニ業務ノ不熟練ヨリ生スル原料ノ浪費ヲ
少クスルコトヲ得ルカ故ニ大ニ資本ノ利用ヲ増加スルモノナリ

六 發明改良ヲ促ス

分業ハ人ヲシテ一事物ニ専心ナラシムル結果トシテ各種ノ發明改良ヲ催進ス
ルモノナリ

斬新ナル發明顯著ナル改良ハ實務ニ從事セス緻密ナル觀察ヲ爲シ深遠ナル道
理ヲ究ムルヲ以テ其務ト爲ス所ノ學者ノ任スル所ナレトモ彼等ノ爲シタル大
發明大改良ヲ實地ニ應用スルカ爲メニ要スル小發明小改良ハ之ヲ實際家ノ手

ニ俟ツ場合決シテ少カラス蒸氣機關ノ瓣ヲ開閉スル自動裝置ハ此事ニ使用セラレタル小童ノ創意ニ係ルモノナルカ如キ最モ顯著ナル一例ナリ

第二目 勞力ヲ爲ス人ノ感スル苦痛ノ分量

勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ハ主トシテ下ノ三原因ニ由リテ増減ス

第一 勞働時間

第二 勞働ノ強度

第三 周圍ノ事情

第一 勞働時間

勞働ニ伴フ苦痛ノ分量ヲ増減スル最大ナル要素ハ仕事ヲ實行スル時間及ヒ堪能ナル勞働者ト爲ルニ必要ナル習練期間ノ長短ナリ例ヘハ一个月ノ勞働ハ一日ノ勞働ノ三十倍一年ノ勞働ハ一个月ノ勞働ノ十二倍ノ苦痛ヲ與フルモノナリト云フコトヲ得ヘシ然レトモ精細ニ之ヲ吟味スルトキハ苦痛ノ感覺ハ單ニ時間ノ倍數ニ比例セス仕事ノ始メニ當リテハ一定ノ時間經過後ニ比スレ

ハ苦痛ヲ感スルノ度強ク夫ヨリ後若干ノ時間内ニ於テハ苦痛ノ程度一定不變ナリ然ルニ勞働稍久シキニ涉リ體力精神力ノ一部消盡スルニ至ルトキハ苦痛ノ感覺ハ急劇ニ増進シ遂ニ之ニ堪フル能ハサルニ至ルモノナリ夫故ニ一日十時間ノ勞働ニ從事スル者ノ第十時間目ノ一時間ニ感スル苦痛ノ分量ハ第二時間目ノ一時間ニ感スルモノヨリ大ナリト云フコトヲ得ヘシ又勞力者カ勞働ヲ爲スカ爲メニ感スル苦痛ノ分量ヲ精密ニ計量セント欲セハ實ニ或仕事ヲ實行スル時ニ感スル苦痛ノ分量ノミナラス其仕事ニ堪能ナル人ト爲ルニ必要ナル準備ヲ爲スニ當リテ感シタル苦痛ノ分量ヲモ算入スルヲ至當トス例ヘハ二十年ノ修練ヲ要スル技師ノ一時間ノ勞力ハ殆ト特別ノ習練ヲ要セサル土方人足ノ二時間ノ勞力ヨリモ當事者ノ感シタル苦痛ノ總量ハ大ナリト云フヲ得ヘシ

第二 勞働ノ強度

仕事ノ種類ニ因リ頗ル輕易ナルモノアリ甚タ困難ナルモノアリ精神若クハ身體ノ全力ヲ之ニ集中スルコトヲ要スルモノアリ愚ミ半分ニ之ヲ實行シ得ルモノアリ又同一ノ仕事ニテモ通常二日ヲ要スルコトヲ一日間ニ爲ストキハ苦痛

ヲ感スルノ程度ハ二倍以上ニ増加スルモノナリ「アダム・スミス」ノ一時間ノ強烈ナル勞働ハ二時間ノ輕易ナル仕事ヨリモ勞働ノ量多シト曰ヒタルハ勞働ノ強度カ如何ニ勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ヲ増減スルカラ説明セテ餘リアリト云フヘシ

第三 周圍ノ事情

勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ハ單ニ勞働其モノノ性質ニ因リテ定マルモノニアラス勞働ニ際シ勞力者ヲ圍繞スル周圍ノ事情如何ニ因リテ大ナル差異ヲ生スルモノトス例ヘハ空氣ノ流通惡シキ場所ニ働キ兎兎卑劣ナル徒ヲ伴トシテ勞役ニ就ク場合ニ於テハ然ラサル事情ノ下ニ同一ノ仕事ヲ實行スルニ比スルトハ勞力者ノ感スル苦痛ノ分量ハ一層大ナリト云フコトヲ得ヘシ

第三節 資本

第一項 資本ノ意義

資本トハ生産ノ用ニ供セラルル有形ノ生産物ヲ云フ

經濟上資本ナル語ヲ以テ表示セラルル觀念ニ二アリ

一 狹義ノ資本 (Capital in the narrower sense) 社會經濟的資本又ハ生産的資本トモ

云フトハ社會經濟的收得ノ手段タル用ヲ爲ス生産物ヲ云フ而シテ貨物ノ社會經濟的收得ノ方法ハ生産ニ限ルヲ以テ資本トハ生産ノ用ニ供セラルル生産物即チ生産ノ手續中ニ顯出スル中間ノ生産物ヲ云フナリ

二 廣義ノ資本 (Capital in the wider sense) 私人經濟的資本又ハ收得資本トモ云フ

トハ貨物收得ノ手段タル生産物ヲ云フ此觀念中ニ含マルヘキモノハ狹義ノ資本ニ屬スル總貨物ノ外所有者自ラ使用セス他人ニ貸出シテ以テ貨物收得ノ手段ト爲ス所ノ消費貨物全體例ヘハ貸家貸本貸金企業者カ前貸シタル勞働者ノ生活維持ノ資料ノ如キモノ等ヲ包括ス生産ノ要素トシテ資本ト云フトキハ狹義ノ資本ヲ指スナリ

第二項 資本テフ觀念ノ歴史的發達

資本即チ Capital ヲフ語ハ羅馬ノ Caput ナル語ニ起調ス其當時 Caput ハ貸金ノ

元金即チ利子ヲ生スル貨幣ノ一定量ヲ指示スル語ナリキ中世ノ語 *Capitale* Capital ヨリ出タルモノニシテ其初ハ同一意義ニ用ヒラレタルモノナリシカ偶然ノ出來事ニ由リ其意義ニ變動ヲ來セリ希臘羅馬學者及ヒ中世ノ神學者宗教家ハ「貸付セル金員ハ世界ニ子ヲ生マス」トノ格言ニ基キチ利子ヲ徴スルハ不當ノ利得ヲ收ムルモノニシテ決シテ許スヘキモノニアラスト主張セリ然ルニ利子ノ徴收ヲ許ササルトハ資金ヲ貸付スル者ナク其不便少カラサルカ故ニ當時ノ人士ハ百方利子ヲ是認スルノ根據ヲ發見スルニ力ヲ用ヒ其結果トシテ一ノ有力ナル辨駁說ヲ得タリ其說ニ曰ク「借リタル貨幣ハ子ヲ生マサレトモ貨幣ヲ借リタル者ハ之ヲ返還スルマテノ間ニ其貨幣ヲ以テ子ヲ生ムヘキ貨物ヲ收得スルコトヲ得ルカ故ニ利子ヲ收ムルハ正當ナリ貨幣ノ使用ハ交換ノ一形式ニ過キス貸主ト借主トノ間ニ實際授受セラレルモノハ果實ヲ生スル貨物ナリ貨幣ハ單ニ一時其貨物ヲ代表スルモノニ過キササルナリ貸借ノ貨物カ果實ヲ生スルモノナレハ其代表者タル貨幣ニ利子ヲ生スルハ至當ノコトナリ」ト此ノ如キ學說一般ニ行ハルルニ至リタル結果トシテ資本ナル觀念ハ留メ代裏

者タル貨幣ノミナラス代表セラレル貨物ヲモ包括スルコト爲ナリ貯蓄セラレタル貨物全體ヲ資本ナリト云フ第二ノ觀念ヲ生シタリ「チェルボー氏ノ說ニ一年間ニ自己ノ使用スルコトヲ要ムルモノヨリ餘分ノ貨物ヲ收得スル者ハ之ヲ蓄積スルコトヲ得ヘシ此蓄積シタル貨物ハ即チ資本ナリト曰フハ即チ是ナリ然ルニ「アダム・スミス」ハ直接ノ運命ニ因リ觀察シテ蓄積シタル貨物ヲ區別シ

一ハ直接ノ消費ニ供セラレルモノニシテ收入ノ源泉タラサルモノ
二ハ持主ニ對シテ收入ノ源泉タルモノ

トノ二ト爲シ後者ノミヲ以テ資本ト名クヘキモノナリト唱ヘタリ是ニ於テ收入ノ源泉タル貨物ヲ資本ト云フ第三ノ觀念ヲ生シタリ其後ニ經濟ニ關スル理論的研究益々盛ナルニ從テ「ジャン・バプチスト・セー」「マツカロツク」「ジョン・ステュアート・ミル」等輩出シテ貨物生産ハ自然及ヒ勢力ノ外ニ一種ノ生産ノ方便ヲ要スルコトヲ明カニセリ而シテ其生産ノ第三ノ方便ハ過去ノ勞働ノ結果ノ蓄積セラレタルモノニシテ「アダム・スミス」ノ所謂收入ノ源泉タル貨物即チ資本ト略

同一ノ範圍ニ屬スル貨物ノ一體ナルコトヲ明カニシ生産ノ第三ノ要素ハ即チ資本ナリト唱道スルニ足レリ是ニ於テカ資本ナル語ハ收得ノ手段タル意義ノ外ニ生産ノ手段タル貨物ヲ第四ノ觀念ヲ表示スルニ至レリ此生産ノ手段タル貨物ヲフ他ノ觀念ハ貨物ノ生産ヲ論スルニ當リテ重要ナレトモ收益ノ手段タル貨物ヲフ他ノ觀念ハ貨物ノ分配ヲ論スルニ當リテ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ第三及ヒ第四ノ資本ニ關スル二ツノ觀念ハ現今廣ク經濟學者ノ是認スル所タリ而シテ收得ノ手段タル貨物全體ト生産ノ手段タル貨物トハ多少其範圍ヲ異ニス社會全體ヨリ觀レハ貨物收得ハ新貨物ヲ生産スルコトニ因リテノミ爲スコトヲ得ルカ故ニ社會ノ目ヨリ觀レハ收得ノ手段ハ生産ノ手段ト一致ス然レトモ一個人ハ消費貨物ヲ他人ニ貸出スコトニ因リ新貨物ヲ取得スルコトヲ得ルカ故ニ社會的取得手段ハ社會的生產手段ナリト雖モ個人的收得手段ハ必スシモ個人的生産手段ノミニ限ラレタルナリ夫故ニ現今經濟學ニ所謂資本ナル語ニハ收得手段タル貨物ト生産的手段タル貨物ヲフ二ツノ意義アリテ各個ノ包括スル貨物ノ範圍モ亦同シカラサルナリ

方ニ屈曲シ過キタリ

It is very probable that having found the bow too much bent in one direction, I was lead to bend it too much in the other with the view of making it straight. —Malhus
ト是レ實ニ一人口論ニ止マラス以テ社會萬般ノ現象ニ律スヘキ言ト云ハス
ンハアラス

伊太利及ヒ「ハンザ」ノ自由諸市ノ勃興ハ漸次封建制度ヲ根本ヨリ浸蝕シ亞米利加發見カリホルニア環坑ノ發掘羅針盤印刷術火藥等ノ發明商工業殊ニ航海貿易ノ發達等國家觀念ノ變遷ニ伴ヒ管ニ形而下ノ諸現象ニ止マラス形而上ノ政治法律宗教道德經濟凡テノ方面ニ向テ又此影響ヲ波及シ此等ノ諸現象カ互ニ因果ノ關係ヲ爲シテ重商主義ト爲リ重農主義ノ反動ヲ喚起シ舊派ト爲リ又今日ノ新派ト爲ル其間ノ變遷消長ハ何レノ方面ヨリ見ルモ最モ趣味多キ點ニシテ專攻ノ諸氏ハ固ヨリ苟モ形而上ノ學科ニ志ス者ハ他ノ形而上ノ現象ニ相關聯シテ須ク一顧ノ勞ヲ執ラスシハアラス
余ハ今茲ニ此等ノ問題ニ付キ之ヲ詳述スルノ機ナキヲ以テ唯此等現象ノ大

體ノ趨勢ニ付キ私見ノ一端ヲ附シテ財政學史ヲ了ラントス此等現象ノ大體趨勢トハ其厚サヨリ觀察スレハ反動ノ程度漸次低減セラルルヲ云ヒ其廣サヨリ觀察スレハ反動ノ範圍漸次擴張セラルルヲ云フ蓋シ古來交通發達セズ列國割據シテ相敵視スルニ際シテハ各國各其人情風土沿革ニ從ヒ各自特種ノ發達ヲ爲シ所謂「バスカル」ノ緯度三度ノ差ハ人定法ヲ轉覆スト云ヘル現象ヲ呈シ隨テ同一ノ時代ニ於テ近距離ノ間ニ於テ著シク相違セル現象ヲ呈スルヲ例ト爲セリ隨テ當時ノ反動ノ程度ハ其範圍ノ狹少ナルニ正比例シテ著シク高カリシハ亦敢テ怪シムニ足ラサルナリ近時文化ノ發達ハ全世界ノ列國ヲ打シテ一團トシ國際法起リテ各種ノ聯合國盟締結セラレ國際分業ノ發生ヲ促シ交通ノ發達ハ殆ト列國ノ大部ヲ同一圈内ニ包含スルニ至リシヲ以テ法律政治經濟等各種ノ現象其步調ヲ一ニシ其範圍ノ廣大ナル又高度ノ反動ヲ許ササルニ至レリ是レ反動ノ範圍擴張セラルルト共ニ其程度低減セラルヘシト云フ所以ニシテ過去現在ニ於ケル歴史ノ沿革ニ徴シ將來ノ變遷ニ就キ又自ラ之カ大體ノ趨勢ヲ忖度スルニ難カラストス或學者カ近時

ノ社會現象ヲ以テ主義主義ヨリ無主義主義ニ變遷スルノ歴史ナリト云ヘルモ亦多少這般ノ消息ヲ漏スモノト云ハサルヘカラス

第二編 收入論

緒論

國家ノ收入トハ國家カ其經費ヲ支辨センカ爲メ收納スル貨財ナリ蓋シ國家ノ經濟ハ出ツルヲ量リ入ルヲ制スト雖モ之カ支出ヲ量ルニハ先ツ國民經濟ノ狀況ニ應シ之カ收入ノ基礎ト爲サスンハアラス古代ノ財政ハ當ニ元首自體ノ收入ト國家自體ノ收入トノ間ニ於テ區別ヲ認メラレサリシノミナラス收入ト支出トハ又全ク相混雜セラレ格段ナル目的ヲ達スルカ爲メニ支出ヲ要スルニ從ヒ之ニ應スヘキ勞役ト物品ヲ直接ニ徵收シ以テ之カ經費ヲ支辨スルヲ例トセリ爾後收入ト支出ハ漸次分科セラレ貨幣ノ流用セラルルニ至リ國庫ノ收入ハ一般貨財ノ交換ノ媒介ト爲リ價格ノ標準ト爲リ尺度ト爲ルヘキ貨幣ニ依ルヲ例ト爲シ國家ハ又貨幣ニ依リ公共ノ目的ニ必要ナル貨財ヲ直接ニ購買スルコ

ト得ルニ至リシヲ以テ收入ト支出トハ全然相分割セラルルニ至レリ隨テ現時文明諸國ノ財政ハ一箇年ヲ期間トシテ之カ收支ヲ計算ス所謂歲入又ハ歲出ト稱セラルルモノ是ナリ

國家ノ收入ハ之ヲ大別シテ經常收入及ヒ臨時收入ノ二ト爲ス經常收入トハ一定ノ期間ニ規則正シク國庫ニ入ルヘキ貸財ニシテ常ニ自働的ニ生スルモノナリ即チ租稅手数料官業又ハ官有財產ノ收入等ノ如キモノ是ナリ臨時收入トハ不定ノ時期ニ國庫ニ入ル定額ナキ貸財ニシテ自働的ニ生スルコトアリ又他働的ニ生スルコトアリ例ヘハ官有財產ノ拂下職利品償金獻納金公債等ノ如キモノ是ナリ經常收入ヲ以テ經常支出ヲ支辨シ臨時收入ヲ以テ臨時支出ヲ支辨スルハ一般個人經濟上ノ原則ニシテ又財政上ノ原則ナリ故ニ本編ニ於テハ經常收入ヲ論シ之ト性質ヲ異ニスル臨時收入ニ付テハ收支適合論ノ下ニ論述ス(シ)經常收入ノ分類ハ現時學說尙ホ區區ニ分レ毫モ一致スル所ナシ是レ收入ノ性質ハ其國ノ歴史沿革ノ如何ニ因リテ各其趣ヲ異ニスルノミナラス其收入ノ名義ト實質ニ於テモ亦一致セサルヲ例ト爲セハナリ殊ニ古代ヨリ中世ニ至ル財

政ノ制度ハ秩然タル規律ヲ存スルコトアリ時ト所ニ因リ種種難多ノ源泉ヨリ收入ノ途ヲ開キタリ故ニ當時各國ノ收入ニ關スル制度ヲ參照シテ之ヲ秩序的ニ分類セシムコトハ蓋シ至難ノ事業タリ隨テ「ボーダン」其他第二期ニ屬スル學者ノ如キハ國家ノ收入ヲ七種ニ或ハ甚シキニ至リテハ十種以上ノ分類ヲ爲セルモノアリ其後官房學派殊ニ「ユスチー」氏ニ至リ收入ノ種類ヲ官有財產ヨリ生スル收入君主ノ特權ヨリ生スル收入即チ「レガリヤ」及ヒ租稅收入ノ三種ト爲シ收入分類法ニ一進歩ヲ與ヘタリ「アダム・スミス」氏ハ又國家ヲ二様ノ人格ヨリ觀察シテ國家カ一ノ法人トシテ財產ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲スニ由リ取得スル君主ノ收入即チ氏ノ所謂半私的收入ト國家カ主權者トシテ其臣民ニ對シ租稅ヲ賦課スルニ由リテ取得スル國家ノ收入ノ二者ニ分類シタリ此分類ハ英佛各國ヲ通シテ行ハレタルモ獨リ獨逸ニ在リテハ在來ノ沿革上「レガリヤ」ノ制存スルヲ以テ實際ト相戾ラサランカ爲メ尙ホ「ユスチー」以後ノ分類法ヲ取リ「ラウ」氏ニ至リテ在來ノ租稅ノ中ヨリ手数料ナルモノヲ分離シテ別ニ一項ヲ追加スルニ至レリ然レトモ「レガリヤ」及ヒ手数料ヲ以テ官有財產ノ收入及ヒ租稅ト相對

立セシムルノ可否ハ獨逸學者間ニ於テ又其說ヲ異ニシ「スタイン」及ヒ「ロツ」ニ
ル等ハ官有財産「レガリヤ」及ヒ手数料ヲ總括シテ全部若クハ半部ノ經濟的收入
トシ之ヲ租稅ニ對立セシムヘシト云ヒ又ウンペンバツハ「レガリヤ」如キハ租稅及ヒ手
數料ヲ合シテ他ノ二者ト對立セシムヘシト云ヒ「ワグネル」ハ租稅手数料ハ之ヲ
合一シテ公共經濟的收入ト爲シ他ノ收入ハ之ヲ私人經濟的收入ト下ニ一括シ
「レガリヤ」ハ全然分類ノ外ニ除却スヘシト云ヘリ此ノ如ク收入ノ分類ニ付テ
ハ學說區區ニ分レ其軌ヲ一ニセスト雖モ今日ニ於テハ國家ハ私人ト同レク
權利關係ニ於テ取得スル收入乃チ私經濟的收入ト國家カ權力關係ニ於テ取得
スル公經濟的收入ノ二者ニ分ツモノ多キヲ占ムルヲ以テ姑ク此分類ニ付テ
講述スヘシ但シ此分類ニ付テハ猶ホ其名稱及ヒ分類等ニ關シ學說區區ニ分
ルルノミナラス手数料及ヒ獨占事業ニ付テハ此分類自體ニ對シテ疑ヲ狹ムヘ
キ點少ナカラス私見ヲ以テスレハ報償ヲ與ヘサル收入ト報償ヲ與フル收入ノ
二者ニ分類シテ租稅ト租稅以外ノ收入ト相對立スルカ又ハ純然タル私經濟的
收入ト純然タル公經濟的收入ト二者ノ相混和セル中間ノ收入ノ三者ニ分類

シ租稅ト官有財産ト手数料及ヒ獨占事業ノ三者ヲ對立セシムルヲ以テ妥當
ト信スルカ故ニ以下收入ノ各所ニ於テ便宜此等ノ問題ニ付キ論述スル所アル
可シ

第一部 私經濟的收入

緒論

國家ノ私經濟的收入ノ性質及ヒ範圍ハ學說區區ニシテ一定スル所ナキハ上述
セシ所ノ如シ然レトモ其分類ノ實質トシテハ租稅及ヒ手数料ヲ公經濟的收入
トシ官業及ヒ官有財産ノ收入ヲ私經濟的收入ト爲スハ大體ニ於テ一致スル所
タリ故ニ其性質及ヒ範圍ニ對シテハ其最モ議論多キ獨占事業及ヒ手数料ノ如
キハ各項目ノ下ニ之ヲ譲リ茲ニハ唯所謂私經濟的收入ナルモノノ大體ノ概念
ヲ述フルニ止メントス

私經濟上富ノ分配則チ賃財ノ生産費ノ分析ニ付テハ「アダムスミス」ハ其富國論
ニ於テ之ヲ自然力ニ對スル報酬即チ地代勢力ニ對スル報酬即チ勞銀資本ニ對

スル報酬即チ利潤ノ三者ニ分テヨリ學說幾多ノ變遷ヲ經タル後現時ニ於テハ自然及ヒ資本ニ對スル報酬即チ利子勢力ニ對スル報酬即チ勞銀起業ニ對スル報酬即チ利潤ノ三者ニ分ツノ學說一般ニ行ハルニ至リ今之ヲ政府ノ私經濟的收入ニ付テ觀察スレハ此等ノ所得ハ各自單獨ニ發生スルコトナク合同シテ發生スルハ私人經濟ノ場合ニ比シテ一層著シキモノアルヲ見ルヘシ而シテ此現象ハ之ヲ反面ヨリ觀察スレハ正ニ私人ノ經濟ニ於テ最モ單獨ニ發生スルコト多キ所謂勞銀ナル所得ハ勞銀ナルモノノ意義ヲ廣ク解釋シテ特種ノ手數料ヲ勞力ニ應スル報酬ナリト解釋スル一種ノ論者ヲ除ケハ政府力勞銀トシテ取得スル收入ハ政府ノ私經濟的收入ヲ通シテ之ヲ見ルコトヲ得サルヲ知ルヘシ

政府ノ所得ハ常ニ利子ト利潤ト相伴フテ發生スルヲ常トス其間ニ雖然タル區別ヲ認ムルハ素ヨリ難シト爲ス所ナレトモ其利子ト利潤ト何レカ其所得ノ緊要ナル部分ヲ成スヤニ依リテ之ヲ類別スレハ自ラ政府ノ私經濟的收入ハ之ヲ二者ニ大別スルコトヲ得ヘシ即チ官有財產ノ收入及ヒ官業ノ收入是ナリ政

府ノ私經濟的收入ノ主トシテ利子ノ性質ヲ有スヘキ財源即チ官有財產ハ之ヲ大別シテ土地森林及ヒ鑛山ト爲シ政府ノ私經濟的收入ノ主トシテ利潤ノ性質ヲ有スヘキ財源即チ所謂官業ハ之ヲ大別シテ政府ノ商業工業及ヒ交通事業トス

國家ノ私經濟的收入殊ニ官有財產ノ收入ハ中世紀ニ於テハ國家ノ唯一ノ財源ニシテ其後國家ノ觀念經濟界ノ狀態ノ發達ニ伴ヒ國家ノ經費著シク増加スルト其比率ヲ減少スルニ至レリ而シテ最近時代ノ特徵ハ所謂官業殊ニ交通事業ノ發達ニシテ此等ノ官業ノ收入ハ官有財產ノ收入ト相待テ漸次公經濟的收入ニ對スル比率ヲ増加スルニ至リシコト是ナリ現ニ我國ノ官業及ヒ官有財產ノ收入ハ十年前ニ在リテハ僅ニ歲入總額ノ十三分ノ一ニ過キサリシモ今日ニ至リテハ殆ト其五分ノ一ニ達スルニ至レリ殊ニ私經濟的收入ノ最モ發達セルハ獨逸各聯邦ニシテ普魯西ノ如キハ私經濟的收入公經濟的收入ニ超過セリ蓋シ近時ニ至リテ私經濟的收入ノ増加ヲ來スニ至リタルハ一般生産事業ノ改良進步

ニ基クモノナリト雖モ其主要ナル原因ハ所謂財政學史ノ第四期ノ主義ト爲ス
國家社會政策主義ノ結果ニ出ラシモノニシテ獨逸ニ於テ私經濟的收入ノ最モ
大ナルハ又之ニ因レリ國家ノ私經濟的收入ノ利害得失ハ公經濟的收入ノ如ク
一ニ其性質體様ノ如何ニ存スルモノナルモ今私經濟的收入ノ必要ナル理由ヲ
列舉スレハ凡ソ次ノ如ク

第一 財政上ノ理由 財政ノ要ハ國家ノ目的ヲ達センカ爲メ之カ行動ニ要ス
ヘキ貨財ヲ取得シ管理シ支出スルニ在リ故ニ之カ貨財取得ノ目的ハ國民ノ
負擔ヲ重カラシムルニ非スシテ之カ負擔ノ輕減ヲ計ルヘキハ又財政上緊
要ナル事項ニ屬ス已ニ國家行動ノ範圍ハ輕減ノ問題ト相伴フテ國民經濟ノ
狀況換言スレハ國民ノ負擔力ヲ基礎トシテ計ルヘキハ上述セル所ナリ而シ
テ國家ノ公經濟的收入主トシテ租稅ハ間接ニ國家ノ平和秩序其他國民各
自ノ身體財產安全ノ保證トシテ之ヲ絕對ニ無償ノ行爲ト見ルヘカラサルモ
其報酬ハ間接ニシテ私人經濟上純然タル無償ノ支出ニ屬シ而モ他働のニ
強制セララルモノタルヲ以テ私經濟的收入ノ場合ノ如ク國民力自働のニ合

意ニ出ツル支出ニシテ直接ニ之ニ相當ノ報酬ヲ受クルモノト全然其趣ヲ異
ニスルモノナリ即チ私人カ政府ニ對スル自働の合意ノ支出ハ私人ニ於テハ
又生産的ニ且ツ必要の行爲ニ屬スルト共ニ之ニ依リテ取得スル政府ノ純
收入ハ將ニ私人ノ負擔額ヲ減削セルモノト云フコトヲ得ヘシ故ニ私人ヨリ
見レハ生産の支出ニシテ政府ヨリ見レハ課稅ノ負擔ヲ減シ臣民ノ納稅力及
ヒ應募力ヲ大ニスルモノナリト是レ財政上政治問題ニ關聯セテ私經濟的
收入ノ利益アル所以ナリトス

第二 經濟上ノ理由 經濟上ノ利害ハ其官私何レノ手ニ依ルニ關セス一ニ其
生産額ノ大小ニ存スルヲ以テ政府ノ生産ニ對シテハ絕對のニ利益多シト云
フ能ハサルモ其事業ニシテ私人ノ不能ニ屬スルモノ又ハ私人ノ可能ニ屬ス
ルモ私人ノ力カ生産ヲ爲スヲ欲セサルモノ即チ總論財政ノ範圍ノ章ニ於テ
國家ノ第一及ヒ第二ノ欲望ニ屬スヘキモノニ在リテハ或ハ之カ先例ヲ作リ
又ハ模範ト爲ル爲メ政府ノ事業トシテ經濟上尤モ必要ナル生産事業ニ屬ス
我國京濱間ノ鐵道事業現時ノ製鐵事業又ハ電信電話ノ事業ノ如キモノ即チ

是ナリ

第三 社會政策上ノ理由 社會政策上ノ理由ヨリ政府ノ事業ト爲スモノハ總論財政ノ範圍ノ章ニ於テ相對的ノ不正ノ欲望ト稱セルモノニシテ政府カ社會ノ富ノ所得分配上一部少數ノ私人ヲシテ巨利ヲ壟斷シ益ヲ貪富ノ懸隔ヲ助長スルコトナカラシメ傍ラ國權ノ行動ニ伴ヒテ之カ統一普及ヲ謀リ以テ公共ノ目的ヲ達スヘキ所謂先天的ノ獨占事業ト稱セルモノナリ其詳細ハ交通事業ノ項目ノ下ニ論述スヘキヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

國家ノ私經濟的收入増加ノ必要ハ既ニ上述スル所ノ如シ而シテ我國ニ在リテハ官有財産ニ於テ官有地ハ全國面積ノ三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ土地森林礦山等ノ事業ノ改良進歩ニ伴ヒ大ニ之カ生産ヲ増加シ得ヘキノミナラス官業ニ於テモ國家主義ノ盛ナル我國ニ古來民權ノ發達セル歐米諸國ト異ナリテ之カ經營ニ對シテ困難ヲ感スルコト少キカ爲メニ私經濟的收入カ歲入ノ半以上ヲ超過スルカ如キハ決シテ豫想スルニ難シト爲ナス以テ國民ノ負擔ヲ削減シ生産ノ發達ヲ來シ社會政策ノ主旨ヲ達スルハ施政家ノ任務ニシテ又我邦財政家ノ

特ニ研究ヲ要スヘキ問題ナリト信ス

第一章 官有財産

官有財産トハ私權上國家カ有スル所ノ財産ヲ謂フ故ニ其體ニ於テハ御料財産ハ君主カ其所有權ノ主體タル點ニ於テ官有財産ト其趣ヲ異ニシ其様ニ於テハ國有財産ハ公權上國家カ有スル財産タル點ニ於テ官有財産ト其趣ヲ異ニス官有財産ト國有財産トノ區別ハ羅馬法時代ヨリ私法ノ規定上不融通其他ノ分類ノ下ニ之カ實質ニ付テ間接ニ認めラルル所アリシモ理論上明カニ形式ノ上ヨリ識別セララルルニ至リシハ近時公法殊ニ行政法及ヒ財政學ノ發達ニ基因セリ國有財産又ハ國家ノ公產トハ公權上國家カ所有スル財産ニシテ國家公共ノ用ニ供セララルルモノナリ之ヲ例セハ道路橋梁河川港灣兵器砲臺軍艦其他官有ノ建物等ノ類是ナリ官有財産即チ國家ノ私產トハ私權上國家ノ所有スル財産ニシテ私人ト同一ノ目的ニ供セララルルモノナリ故ニ人民モ一般ニ之ヲ使用シ得ヘキモノ多ク又之ニ對シテ報償ヲ支拂フコトナキヲ原則トシ賣買讓與セラル

財政學 收入論 私經濟的收入 官有財産

ルコトナシ官有財產ハ私人ト同一ノ目的ニ供セラルルモノナルカ故ニ國家ハ之ニ依リテ收入ヲ得ルヲ原則トシ人民ハ之カ生産又ハ所得ニ對シ報償ヲ支拂フモノニシテ賣買讓與ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

以上述フル所ニ依リ國有財產ト官有財產ノ區別ハ財產其物自體ノ性質ニ因ルニアラスシテ場合ニ依リテハ國家カ財產其物ニ對スル關係ニ因リテ相對的ニ生スルモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ然レトモ或程度マテハ財產其物ノ性質カ絕對ニ之カ所屬ヲ決スルモノアリ換言スレハ人爲ニ因リテ之カ性質ヲ變更シ難キモノ之ヲ例セハ河川港灣ノ如キモノハ其物自體ハ直チニ行政法上公有物ノ條件ヲ具備スルモノニシテ之ヲ河川港灣自體ノ目的以外ニ使用センコトハ殆ト不能ニ屬スルモノナレハナリ然リト雖モ此等ノ例外ヲ除ケハ一般ニ國家カ之ヲ公共ノ用ニ供スルヤ否ヤノ意思ノ變更ニ因リテ同一ノ財產カ或ハ國有財產ト爲リ或ハ官有財產ト爲ルモノナリ故ニ國有財產ト行政法上所謂公有物ナルモノトノ關係ハ公有物其物ノ觀念ハ未タ一致スル所ナキモ大體ニ於テ國家ノ所有ニ屬スル公有物ハ總テ國有財產ニシテ私人ノ所有權ニ屬スル公有

物カ之カ稀有ノ例外ヲ爲スニ過キサルナリ官有財產ニ至リテハ官有財產其物ノ範圍限界ニ付テ學說區區ニ分レ最狹義ニ解釋スル論者ハ單ニ官有ノ土地ニ限定シ鑛山ノ如キハ之ヲ官業ニ移シ森林ノ如キハ私法上ノ原則ニ支配サルルコトナク森林ノ收入ハ收入其物ヲ目的ト爲シテ經營セラルルモノニ非スシテ國家公共ノ目的之ニ附隨シ公法上ノ特權ニ依リテ支配サルルヲ以テ例ト爲スヲ以テ公經濟的收入ト看做スヘキモノナリトシ廣義論者ハ森林ノ如キハ政府カ主トシテ收入ヲ目的トスル財產ナルカ故ニ之ヲ官有財產ノ一部ナリトシ最廣義ノ論者ハ鑛山ノ如キ探掘シタル鑛物ノ冶金製煉ノ點ヨリ見レハ純然タル工業ナルモ單ニ此等ノ鑛物ヲ所有スル點ヨリ見レハ一ノ官有財產ト觀ルヘキモノニシテ通常政府カ同時ニ之カ冶金製煉ノ事業ヲ爲スヲ以テ工業トシテ之ヲ論スルニ過キスト爲ス等其論スル所各絕對ニ之カ是非ヲ斷言シ難キモノアリ故ニ茲ニハ一般ノ學說ニ從ヒ廣義ニ解釋シテ述フル所アラントス

古代國家ト元首トノ別明カナラサル時代ニ在リテハ此等財產ノ區別認メラレサリシコトハ固ヨリ言ヲ埃タス然レトモ國有財產ニ至リテハ河川港灣ノ如キ

人爲ノ影響ヲ受ケタルモノニ付テハ固ヨリ著シキ變遷ヲ見ルニトナキモ人爲ニ依ル國有財產乃チ「ルロア、ボリウ」氏ノ官有建築物所在ノ公產官有建築物ナキ公產及ヒ道路橋梁ノ類ニ至リテハ年ヲ逐フテ遞増シ殊ニ近時軍事情政ノ膨脹ニ伴ヒ此等公產ハ著シキ増加ヲ見ルニ至レリ其數量及ヒ價額ニ至リテハ正確ノ統計ヲ得ルニ難キモ官有財產ニ超ユルヲ例ト爲スモノノ如シ國有財產ハ其物自體ニ於テ稀有ノ例外ヲ除キ政府ノ收入ヲ生スヘキモノニ非サルヲ以テ財政上收入編ニ於テハ之ヲ論スヘキモノニアラサルモ之カ設備及ヒ維持ハ行政上必須ノ事務ナルヲ以テ經費論ニ於テハ又一ノ趣味アル問題ニ屬セリ官有財產ノ收入ノ沿革ヲ見ルニ古代ニ在リテハ概シテ官有土地ノ收入最モ多キヲ占メ官有森林ノ收入ニ至リテハ頗ル少額ニ止マレリ然レトモ爾後年ヲ逐フテ二者ノ比例相顛倒シ來リ今日ニ於テハ官有土地ノ收入大ニ減少シテ官有森林ノ收入大ニ増加スルニ至レリ尤モ此等ノ收入ハ各國其歷史沿革ニ因リテ互ニ其趣ヲ異ニシ現政府ニ於テモ獨逸奧地利露西亞ノ如キハ官有ノ森林耕地共ニ多キモ佛蘭西及ヒ我國ノ如キハ官有森林ノ多キニ反シ官有土地ニ至リ

テハ殆ト之ヲ所有スルコトナク英國ニ至リテハ二者共ニ殆ト之ヲ所有スルコトナシ

官有財產其物ノ沿革ヲ觀察スルニ自然ノ取得ハ古今ヲ通シテ素ヨリ著シキ變化ヲ見サレトモ國際上ノ取得即チ戰爭贈與賣却合同先占等ニ依ル官有財產ノ取得ハ國家ノ興亡常ナク未開ノ土地多キ古代ニ於テハ最モ其例多ク時ヲ經ルニ隨ヒテ之カ取得漸次減少ヲ見ルニ至レリ又國內間ノ取得即チ主トシテ國家命令權ノ作用ニ出ツルモノハ古代ニ在リテハ相續法刑罰法等ニ因リ總テ他國國家行動ノ目的ニ出ツル自因ノ原因ニ由リテ積極ニ之カ收用ヲ爲スコト一般ニ増加スルニ至レリ所謂土地收用ノ類是ナリ

第一節 官有ノ土地

第一款 官有土地ノ意義

官有土地ノ名稱ハ各國ニ通シテ其實質ト相一致スル所ナシ茲ニ官有土地ト稱

スルハ「ドメイン」ヲ指スモノニシテ我邦ニ在リテハ之ニ該當スヘキ辭句ナシ「ドメイン」ナル字義モ古來幾多ノ變遷ヲ經タルモノニシテ當初ニ在リテハ支配地若クハ占領地ヲ稱シテ從前ヨリ農民ノ有スル土地ト區別シ其後國家其他ノ公共團體カ特別ノ經費之ヲ例セハ王室費又ハ債務ノ元利償却等ニ充テラレシ土地ヲ總稱シ其後又一切ノ官有土地ヲ總稱セラレシコトアリ現時我邦ノ官有地ノ意義ノ如キ其範圍廣クシテ明治七年第二百十號布告地所名稱區別ニ依レハ官有物ハ官衙其他營造物ノ敷地官有ノ山嶽及ヒ林藪原野河海宅地田畑等總テ官有又ハ國有ノ土地ヲ總稱スルモノノ如シ然レトモ今日「ドメイン」蓋ニ所謂官有土地トハ政府カ私經濟上ノ目的ヲ以テ所有スル土地即チ耕地ヲ指スモノトス蓋シ「ドメイン」森林ヨリ區別セラレタルハ學理上ノ結果ニアラスシテ耕地ハ主トシテ人民ニ貸付シテ小作セシメ森林ハ政府自ラ之カ經營ノ任ニ當レルヨリ實際上分科セラレタルモノニシテ現時ニ於テハ二者ノ間ニ於テ又各種ノ主要ナル區別ヲ認ムルニ至レリ我邦ニ在リテハ官有土地ハ北海道ニ於テ之ヲ見ルモ單ニ官有ノ原野ヲ私人ニ貸下ルモノニシテ其開墾セラレタル土地ハ

一定ノ期限ヲ以テ其開墾者ノ手ニ於テ拂下ヲ得ルモノナルカ故ニ官有土地ノ財政上ノ研究ニ付テハ以下之カ管理及ヒ利害ニ付キ其大要ヲ述フルニ止メン
トス

第二款 官有土地ノ管理

官有土地ノ管理法ハ大別シテ直接管理法委任管理法及ヒ小作法ノ三者トス
第一 直接管理法

直接管理法ハ中世紀ヨリ近世紀ノ半頃ニ至ルマテ盛ニ行ハレタル方法ニシテ國家カ直接ニ其官吏ヲシテ農產物ノ生産及ヒ販賣ヲ管理セシムルモノナリ此方法ハ古代國家ノ事務簡單ニシテ殊ニ農業未タ發達セサル時期ニ在リテハ其弊害未タ大ナラサルモ今日ノ如ク農業ノ發達著シキヲ加ヘ熟練ナル技術ト注意トヲ要シ一方ニハ國勢多端ニシテ錯雜ヲ極ムルニ當リ利害關係ヲ感セサル官吏ヲ以テ之レカ管理ヲ爲サシムルハ管ニ經費多キニ失スルノミナラス却テ之カ生産ノ發達ヲ阻害シ且ツ其收入額ノ不確定ヲ避クルコト能ハサルカ故ニ近

時此方法ハ一般ニ用ヒラルコトナク唯行政上ノ目的ヨリ模範農場農事試験場等ノ設備ヲ見ルニ止マレリ

第二 委任管理法

委任管理法トハ土地ノ管理ヲ委任セラレタル者カ一定ノ年額ヲ政府ニ納メ其收穫豫定額ニ超過スルトキハ一定ノ比率ヲ以テ其一部ヲ政府ノ所得ニ納付スル一種ノ請負法ニシテ又利潤分配法ト稱セラル千六百六十年以後數年間獨逸ノフランドンブルクニ於テ此方法實施セラレタルモ其效果不良ナルニ因リ忽ニ廢止セラレタリ其原因ハ主トシテ請負人カ管理ノ能力ヲ缺キ之カ資本ニ缺乏シ且ツ其所得ノ僅少ニ失セルニ基セルカ如シ現時支那朝鮮等ニ行ハルル委任管理法ハ又之ト正反對ノ原因ニ由リテ其弊害最モ大ナルモノノ如シ即チ請負人カ當該官吏ト相結託シテ巨利ヲ壟斷シ一方ニハ自己ノ利益ヲ圖ルニ急ナルノ餘收歛苛酷ニ失シテ農業ノ萎靡ヲ來シ殊ニ農民ノ疾苦ヲ増シ農民ト請負人ノ惡感ハ延テ一國ノ治安ヲ擾亂スルニ至ルコトアルハ古來各國ニ於テ其例尠シト爲ササル所ナリ

第三 小作法

小作法ハ政府カ所定ノ小作料ヲ納付スルヲ條件トシテ私人ニ小作セシムル方法ニシテ政府ハ手數及ヒ經費ヲ節略シテ年年一定ノ收入ヲ得而モ其生産ノ發達ヲ阻害スルノ弊害少キヲ以テ現時一般ニ行ハルル所ノ方法ナリトス唯小作トシテ貸下タルニ際シ大小作ヲ許ストキハ社會政策上多數ノ獨立農夫扶殖ノ趣旨ニ反シ且ツ事實上一種ノ長期請負管理法ト爲ルヲ以テ之ヲ多數ノ小小作ト爲スコト最モ必要ナリトス小作法ハ細分シテ年期小作法及ヒ世襲小作法トス

(甲) 年期小作法 年期小作法ハ一定ノ期限ヲ限リテ小作セシムルノ法ナリ但シ其期限短キニ失スルトキハ小作人ノ土地ニ對スル利害關係密接ヲ缺キ徒ニ土地ノ生産力ヲ消耗スルノ弊アルノミナラス之カ契約締結ノ手數ヲ重スルヲ以テ一方ニハ地價ノ昂騰ヲ來スヘキ時期ヲ超ユサルコトヲ要スルト共ニ一方ニハ小作人ヲシテ其勢力ト資本トヲ投下スルニ足ルヘキ充分ノ餘裕ヲ與ハサル可カラス獨逸ニ在リテハ年期小作ノ期限ハ通常十年ヲ下ルコトナキヲ例

ト爲セリ然レトモ英國等ニ在リテハ其期間ノ長短ニ拘ラス之カ期限ノ到來ニ際シテハ小作人ハ勢ヒ可成經費ヲ節略シテ土地ノ生産力ヲ消耗スルノ憂アルヲ以テ期限ノ終ニ在リテハ小作人カ土地ノ改良等ニ支出セシ經費ニ對シテ相當ノ報償ヲ與フルコトアリ其他官有地ノ肥料牧草等ハ凡テ官有土地ニ使用ス可キモノトシ官有土地ノ小作人ハ政府ノ小作地以外ノ小作ヲ爲ス可カラスト爲ス等各種ノ制限ヲ設ケテ官有土地ノ生産力ヲ保護スルヲ例ト爲セリ其他獨逸等ニ在リテハ土地ノ外一定ノ器具機械家畜建造物等ヲ同時ニ貸與シテ特別ノ小作法ヲ契約スルコトアリ隨テ歐洲ニ在リテハ小作人ノ保證金制度モ亦重要ナル問題ニ屬セリ

(乙) 世襲小作法 世襲小作法トハ永久ニ世襲シテ小作セシムルノ法ニシテ一般ニ其小作人ヲシテ借地權ヲ相續セシムルノミナラス又之ヲ一定ノ條件ノ下ニ賣買スルコトヲ許シ其土地ノ拂下ニ對シテハ之カ公賣ニ付キ優先權ヲ與フルヲ例ト爲セリ此法ハ古來ヨリ官有財產ト關聯シテ羅馬ノ市邑ノ共有地ニ於テ發生シ中世ニ至リテモ寺院ハ多ク此制度ヲ採リタリ此法ハ其實質ニ於テハ

義務ノ不履行ニ對シ救正權ヲ附帶セル一種ノ買戻約款附買買ト見ルコトヲ得ヘク時代ノ變遷ニ伴ヒテ小作料ノ實價ニ變動ヲ來スノ弊ナキアラサルモ土地ノ生産力ヲ潤滑セシムルノ憂少ク監督經費ノ煩累ヲ避ケテ一定ノ地代ヲ得ルカ故ニ一般ニ公共團體ノ採用スル手段タリ

第三款 官有土地ノ利害

官有土地收入ノ利益ト其收入カ自然力ヨリ生スル特種ノ所得タル點ヨリ土地私有制度ヲ全廢シテ總テ之ヲ國家ノ手ニ歸一セシムヘシト爲ス說ハ若シ買收法ニ依ラサル無償ノ國有強制歸屬論トスレハ當ニ不正不法ノ手段タルノミナラス私有財產ノ基礎確立セシ今日ニ於テハ不能ニ屬スル空論ト云ハスシハアラヌ又若シ買收ニ依ル國有論トスレハ之カ買收金額買收ノ手續之カ經營ニ關スル實際問題ノ顧ミサル架空ノ辯論ト云ハスシハアラヌ故ニ茲ニハ官有土地拂下ノ可否即チ保存ノ是非ニ付キ其大要ヲ講述スヘシ

官有土地保存論ハ前世紀ニ在リテハ「ユースター」等カ租稅ニ優レル財源トシテ唱

道セル所ニ係ルモ重農學派及ヒ「アダム・スミス」派カ之ニ對シテ絕對ノ拂下論ヲ主張シタヨリ今世紀ノ中葉ニ至リ「ラウ」等カ社會政策問題ニ關聯シテ之ニ反對ヲ爲ス者夥シト爲ササレトモ大體ニ於テハ各國皆拂下ノ方針ヲ採ルモノノ如シ然レトモ此等學說ノ駁ル所ハ理論ノ是非ニアラスシテ事口時ト所トニ依リ實際問題ニ歸着スルコト多キヲ以テ固ヨリ絕對ニ之カ可否ヲ論斷スヘキモノニアラス今兩者所說ノ大要ヲ列舉スレハ次ノ如シ

第一 官有土地拂下論

(甲) 絕對ノ理由

(一) 財政上ノ理由

(イ) 官吏ハ利害關係比較的薄キヲ以テ之カ管理ニ冷淡ニシテ徒ニ事務ノ煩雜ヲ來シ時ト勢力トノ冗費ヲ大ニスルコト

(ロ) 生産物ノ賣却其他私人經濟上ノ行動ニ屬ス可キ敏活ヲ要スル事務ハ之ヲ法規ノ下ニ支配セララル政府ノ行動ニ於テ期シ難キコト

(ハ) 官有土地ノ制ハ人民ノ耕地ヲ減少スルカ故ニ結局却テ人民ノ實際

モ元來該布告ハ小區域ヲ限リ特ニ不適當ナルモノノミヲ救済スルノ趣旨ニ出タタルヲ以テ其適用ノ範圍ハ極メテ狹ク實際之ニ依テ修正・減額シタルハ地價ニ於テ千六百九十萬餘圓地租ニ於テ四十二萬餘圓ニ過キスシテ未タ以テ全般ヲシテ權衡ヲ得セシムルニ至ラス且ツ地租改正後ニ生シタル諸般ノ關係モ亦土地ノ實益ニ影響セ地價ノ權衡ヲ失ハシムルノ原因ト爲リタリ今地租改正當時及ヒ其後ニ於テ各地ノ地價ヲシテ權衡ヲ缺クニ至ラシメタルモノヲ案スルニ凡ソ左ノ如キ原因ヨリ來ルモノノ如シ

甲 改租當時ノ原因

(イ) 地租改正ノ着手及ヒ完成ハ地方ニ因リ先後アリ而シテ最初ニ改正ヲ舉行シタル地方ハ地價概テ低下ナリ蓋シ最初ニ於テハ物價低落ノ際ナリシヲ以テ低廉ナル物價ヲ標準トシテ地價ヲ算出シタルト且ツハ官民共ニ尙未經験ヲ有セザリシカ爲メ偏ニ賦租ノ輕減センコトヲ欲シタル如キトニ因ルナルヘシ

(ロ) 舊租ノ重カリシ地方ハ自ラ地價高貴ナリ地租改正ハ實地調査ノ結果ニ

(一) 依ルヘキモノニシテ舊租ヲ斟酌スヘキモノニアラスト雖モ舊租ハ時ニ實地調査ノ結果ノ當否ヲ判斷スルノ標的ト爲リ爲メニ自ラ地價ニ影響シタルナリ

(二) 全國地方ニ依リ其取扱者ヲ同シウセサルガ爲メ各自ノ見ル所自ラ異同アルヲ免カレズ

乙 改租以後ノ原因

(イ) 交通機關ノ漸次整備スルニ隨ヒ各地ノ物價殊ニ米價ハ漸ク平均ヲ得ルニ至リ改租當時ニ於テ地價算出ノ基礎ト爲シタル石代ト差違ヲ生シ爲メニ土地ノ收利上ニ一大變化ヲ與ヘタルモノ多シ

(ロ) 交通及ヒ金融ノ機關整頓ヲ得ルト共ニ各地ノ金利モ亦漸ク平均ヲ得ント爲メニ改租當時ノ利率ハ適當ナラサルモノヲ生シタリ

(ハ) 外國貿易ノ隆運内地工業ノ増進等ハ各地市街繁否ノ形勢ヲ一變シ地價ニ影響ヲ與ヘタルモノ尠カラズ

右ノ原因ヲ各地方ニ適用シテ説明スルコトハ予ノ好マサル所ナルヲ以テ茲ニ

ハ之ヲ省略スヘシト雖モ既ニ此ノ如キ事情アル以上ハ之カ救済ノ途ヲ講スルハ當局者ノ當ニ勉ムヘキ所ナルヲ以テ改租當時ニ用ヒタル收穫石代利率ニシテ更正ヲ要スルモノヲ精密ニ調査シ之ニ依テ地價ノ修正ヲ爲スヘキ府縣及ヒ其修正總額ヲ定メ明治二十二年法律第二十二號ヲ以テ田畑ニ限リ特ニ其地價ヲ修正スルコトト爲レリ其法律ハ左ノ如シ

朕地租改正以來ノ實歴ニ徴シ此法律ニ指定スル府縣ノ田畑ニ限リ地價低減ノ必要ヲ認メ地價ノ特別修正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治二十二年八月二十六日

内閣總理大臣 伯爵 黑田 清隆
大 藏 大 臣 伯爵 松 方 正 義

法律第二十二號

第一條 田畑地價ノ特別修正ヲ爲スヘキ府縣國郡及其修正地價總額左ノ如ク
(府縣國郡及ヒ地價總額略之)

第二條 修正地價總額ニ依リ低減スヘキ市町村田畑ノ地價額ハ大藏大臣之

ヲ定メ府縣知事ヲシテ達セシム

第三條 此法律ニ依リ地價ヲ低減シタル田畑ノ地租ハ明治二十三年分ヨリ

其修正地價ニ依リ之ヲ徵收ス

法律第二十二號ノ特色ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 地價ノ修正ハ輕減スヘキモノヲ低減スルニ止メ増加スヘキモノハ之ヲ增加セス

(ロ) 法律ニ於テハ修正地價ハ多クハ府縣又ハ國ナル區域ヲ以テ其總額ヲ定メ僅ニ二三ノ縣ニ於テハ多數郡ヲ一區域トシテ其總額ヲ定メタリ

(ハ) 府縣國郡ニ於ケル市町村ノ修正地價額ハ大藏大臣之ヲ定ム

(ニ) 市町村內每筆ノ修正地價額ハ地主總代ヲシテ之ヲ定メシムルモノトシ

法律ニ於テハ何等ノ規定ヲ爲サス

法律制定當時ニ於ケル豫定ニ依レハ修正法ノ爲メ田畑地價凡ソ一億二千萬圓其地租凡ソ三百萬圓ヲ減スルニ在リシカ如シト雖モ實際ニ於テハ計算上ノ差

數アリタル爲メ地價一億二千九百五十三萬五百四十四圓地租三百二十四萬千九百十圓ヲ輕減シタリ

六 明治三十一年ニ於ケル地價修正地租増徴及ヒ宅地組換

田畑地價ハ明治二十二年ニ於テ特別ノ修正ヲ行ヒタルヲ以テ頗ル其矯正ヲ得稍ヤ公平ヲ得ルニ近キタリト雖モ當時ノ修正ハ歲計ノ許ス限度ニ於テ之ヲ行ヒタルカ故ニ之ヲ全國ニ就テ遠觀スルトキハ尙ホ未ダ全ク其權衡ヲ得ルノ域ニ達セサルモノアリ是ヲ以テ明治二十三年帝國議會ノ開設セララルヤ地價修正論ハ露々トシテ起リ每會其議ノ衆議院ノ問題ニ上ラサルコトナシ終ニ明治二十五年ニ至リ時ノ政府ハ田畑地價特別修正法律案ヲ立案シ勅旨ヲ奉シテ第四帝國議會ニ提出シタリ其要旨ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 田畑地價ノ偏重ナルモノハ一億四千萬圓以上一億五千萬圓以下ノ範圍ニ於テ之ヲ修正低減ス

二 地價修正ノ標準ハ土地ノ品位ニ依リ收穫ヲ低減シ明治二十年以降五個年間平均米價ニ付キ一定ノ歩合ヲ以テ低減シタルモノヲ以テ石代トシ利

率ハ總テ百分ノ六ト爲スニ在リ

三 市町村ノ修正地價額ハ大藏大臣之ヲ定ム

四 市町村内毎筆ノ修正地價額ハ地主會議ノ議決ニ據テ之ヲ定ム

地價一億五千萬圓ヲ減スルトキハ地租ニ於テ三百七十五萬圓ノ歳入ヲ減スルヲ以テ當時政府ノ計畫ハ所得稅酒稅及ヒ煙草稅ヲ増加シ其收入ヲ以テ之カ補充ヲ爲サムトスルニ在リ然ルニ衆議院ハ地價修正法律案ヲ可決シタルモ他ノ三稅案ヲ否決シ貴族院ハ又地價修正法律案ヲ否決シタルヲ以テ地價ノ修正ハ終ニ其實行ヲ得ス尋テ明治二十七八年日清戰役ヲ經國庫ノ蒙計ハ容易ニ地價ノ修正ヲ爲スカ如キヲ許サザリレヲ以テ一時地價修正論ヲ聞カサリシモ戰後財政ノ整理ヲ要シ地租ニ於テ歳入ヲ増加セントスルニ至リ現狀ヲ以テ直チニ地租定率ヲ増加スルトキハ地租負擔ノ偏重偏輕ハ益々其程度ヲ増進セントスルヲ以テ茲ニ再ヒ地價修正ハ財政上ノ問題ト爲ルニ至リ明治三十一年第三十二號法律ヲ以テ田畑地價ノ修正ヲ爲スヘキコトヲ定メタルコト左ノ如シ

法律第三十一號

第一條 田畑地價ノ修正ヲ爲スヘキ地方及ヒ其修正地價總額左ノ如シ

(地方及ヒ修正地價總額略之)

第二條 明治三十二年二月一日ニ於テ前條各區域ノ土地臺帳面田畑地價總額

如前條ノ修正地價總額ヨリ少キトキハ其地方ニ於テハ地價ノ修正ヲ爲サス

第三條 第一條各區域内毎筆ノ修正地價ハ明治三十二年二月一日ノ土地臺帳面地價ニ按分シテ之ヲ定ム

第四條 此ノ法律ニ依リ地價ヲ修正シタル土地ノ地租ハ明治三十二年分ヨ

リ修正地價ニ依テ之ヲ徵收ス

明治三十一年第三十一號法律ハ從來ノ地價修正法トハ稍ヤ其規定ヲ異ニス今其規定ノ要點ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 地價ノ修正ハ輕減スヘキモノヲ低減スルニ止メ増加スヘキモノハ之ヲ増加セズ

(ロ) 地價修正ハ都市ヲ區域トシ其區域毎ニ彼此ノ權衡ヲ謀リタリ

(一) 修正地價總額ハ法律之ヲ定メ行政官ノ取裁ヲ許サス

(二) 郡市内毎筆ノ地價ハ其區域内從前ノ地價總額ト修正地價總額トノ比率

ニ依リ之ヲ低減セタリ

而シテ法律ニ規定セラレタル各區域毎ノ修正地價總額ハ當時議會ニ提出セラレタル法律案ノ理由書ニ依レハ地價算出ノ要素タル收穫石代利率ノ三者ヲ更訂シテ之ヲ定メラレタルカ如シ即チ

一 收穫ハ全國一般ヲ遡觀シ改租ノ事蹟ヲ調査シ彼此權衡ヲ得ルヲ期シテ相當低減ス

二 石代ハ明治二十年以降十ヶ年平均米價ヲ一定ノ割合ヲ以テ低減シタルモノニ依ル

三 利率ハ改正ノ際六厘以下ナリシモノハ之ヲ六厘ニ改メ六厘又ハ六厘以上ナリシモノハ之ヲ据置ク

明治三十一年法律第三十一號第一條ニ規定スル修正地價總額ヲ以テ之ヲ明治三十一年七月一日現在ノ地價ニ比スルトキハ一億四千九百二十九萬餘圓ヲ減

校外生規則摘要

- 一 講義録ハ毎月二回發行シ滿一個年ヲ以テ卒業トス
- 一 講義録ハ之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ
 - 第一部 毎月 五日 二十日
 - 第二部 毎月 十日 廿五日
 - 第三部 毎月 十五日 三十日
- 一 月謝金ハ全部壹圓、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セス
- 一 校外生ハ本校講議會、討論會ニ出席傍聽スルコト及ヒ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得
- 一 校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校内生三年級ニ編入セラルコトヲ得
- 一 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得
- 一 但シ返信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス
- 一 三個月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス
- 一 月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係トスヘシ

明治廿二年十二月九日內務省許可

明治三十三年四月六日印刷

明治三十三年四月十日發行

編輯者

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

小田 幹治 郎

印刷者

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

金子 鐵五 郎

印刷所

東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地

金子 活版 所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 指定 **和佛法律學校**

(電話番町百七十四番)